



自閉症のある子どもたちの

保育・教育



Q&A



保育所・幼稚園・児童館等における理解と支援のために



平成21年3月

山形県立総合療育訓練センター

(山形県発達障がい者支援センター)

はじめに

平成17年4月に発達障害者支援法が施行され、国においては、発達障がい者の自立と社会参加を目的として、都道府県・指定都市への発達障害者支援センターの設置や発達障害情報センターの設置など様々な取り組みが進められてきました。その結果、これまでに全ての都道府県に発達障害者支援センターが設置されました。

また、昨年8月には発達障害者施策検討会報告書「発達障害者支援の推進について」において、発達障害者支援固有の課題について、①地域支援体制の整備、②支援手法の開発、③調査・研究、④人材の育成、⑤情報提供・普及啓発という5つの観点から、その基本的な考え方や対応の方向性が示されました。発達障害者支援センターに関しては、専門的なアセスメントやモニタリングを行う機関としての位置づけを明確にすること、関係機関との連携を深め市町村や直接処遇職員に対するバックアップや、ピア・カウンセリングやペアレントメンターの養成に関する検討を行うことなどが求められています。

山形県においては、発達障害者支援法の施行と同じ年の平成17年の10月に東北では仙台市に続いて2番目に山形県発達障がい者支援センターを総合療育訓練センター内に開設をしたところです。これまで3年半の間、個別の相談援助、普及啓発・研修及び関係機関との連携・連絡調整の3つの観点から業務を進めてまいりました。特別支援教育の推進などともあいまって、自閉症等の発達障がいに関する理解や支援の輪は広がってきていますが、今後ますます発達障がい者の支援ニーズは高まるものと予想されます。

この冊子は、こうした発達障がい者支援の普及啓発活動の一環として、自閉症のある子どもたちの保育や教育に関する疑問に答えるという目的で作成しました。対象としている読者の方々は、主に就学前の子どもたちの保育や教育に携わっている保育所・幼稚園・児童館等の職員の皆様です。内容は、研修会等の中で出される自閉症支援に関する質問などに1問1答で答えるというものとししました。障がいを自閉症に絞った理由は、この障がいのある子どもたちの困り感や支援のイメージが最もつかみにくいと考えたことと、また自閉症の理解と支援は、他の障がいのある子どもたちや定型発達の子どものための支援にも活かせるものと考えたからです。多くの方々から御高覧を賜り、今後の自閉症支援に御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、質問作成に御協力いただきました保育所や幼稚園の先生方をはじめ、関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

山形県立総合療育訓練センター 所長 井 田 英 雄
(山形県発達障がい者支援センター)

目次 contents

はじめに

目次

I 自閉症等の広汎性発達障がいや「気になる」子どもへの支援Q&A

1. 対人関係・友だちとのつきあいなどの特徴に関する理解と支援 P4

集団活動への参加

- Q 集団行動へ参加させたい
- Q 次の活動に移れない。どこまで集団活動を意識させれば良いのか
- Q 集団参加での配慮は？
- Q 興味のない活動にも参加させたい
- Q 受身的で拒否できない。問題となる行動はないが…

コラム1 TEACCHプログラムとは

友だちとの関係

- Q 友だちに声をかけられない
- Q 自身は楽しそうだが、ルールが覚えられず、友だちと仲良く遊べない

2. コミュニケーション(言葉の理解や表出など)の特徴に関する理解と支援 P9

- Q 自閉症のある子どもとのコミュニケーションのきっかけをつかみたい
- Q 表面的な会話はできるが、一方的になりがちなどころも…
- Q 指示が通らない。返事がオウム返しになることも…
- Q 空想の話をする
- Q 同じ質問を繰り返す。質問攻め…
- Q 冗談が通じない。言葉も字義通りの解釈をし、話がかみ合わないことも…
- Q 視覚支援・構造化の支援によって、言葉を覚えられない？

コラム2 PECSとは

3. 想像力の特徴(こだわりなど)に対する理解と支援 P14

- Q こだわりが強い。思い通りにならないと、パニックや自傷行為が見られる。
 - Q 特定の友だちに執着。拒否されると、乱暴な行動や暴言…
 - Q 好きな遊具を横目でチラチラ…
- コラム3 応用行動分析(ABA)とは
- Q 予定の変更が苦手。興奮したり、逃げ出したり、泣いたりしてしまう。
 - Q 次の行動へスムーズに移れない。
 - Q ピョンピョン跳びはねたり、手をヒラヒラさせたりしている。制止した方が良い？
 - Q 高い所へ登ったり、外へ出て行ったり、危険な行動を制止したい。
 - Q 2つ以上の指示を覚えられない。

4. その他の障がい特性に対する理解と支援 P19

- Q 暗い場所や、ちょっとした音におびえるなど、感覚過敏がある。
- Q お遊戯やリズム遊びの時間など、両耳を手でふさいでいる。
- Q 落ち着きがない。強制すると、暴れる。
- Q 精神的に不安定。思い通りにならないと、部屋を飛び出したり、反発したり…
- Q 薬を飲んでいる場合、配慮することは？

5. 生活習慣に関する支援 P21

食事

- Q 箸を練習しているが、指先がうまく動かない…
- Q 偏食がある。いろいろな食事・味を体験させたいが…。
- Q 偏食がひどい。落ち着きもなく、どのような支援をすると良いか？
- Q 水を蛇口から直接飲めない。コップに口をつけることも嫌がる。
- Q 園では騒がず食事できるが、家では難しい様子。

排泄

- Q 排泄の正しい方法を身につけさせたい。
- Q 排尿間隔は長くなってきたが、排泄が自立できていない。どのような支援を？
- Q 園のトイレで排泄しない。排尿間隔も長いようだが、大丈夫か？

睡眠

- Q 昼寝をしない。睡眠時間も不安定。どのような支援が良いか。

製作活動

Q 手先が不器用。経験不足もあるようだが、どのような支援をすると良いか。

登園渋り

Q 登園渋りが見られる。どのような配慮をすると良いか。
Q 休み明けの調子が良くない。長期休みの過ごし方は？

6. 保護者やきょうだいなど家族に対する支援 P26

「気になる」子どもの保護者への支援

Q 「気になる」子どもにも視覚的な支援は有効なようだが、保護者にどう感じるか心配。
Q 専門機関を紹介したいが…
Q 子どもの様子を心配しているようだが、受け止められず、先に進まない。
Q 医師により診断が異なり、自閉症ではないという意見を信じてしまって…
Q 順番を守れない。園では心配しているが、保護者は気にしていないようで…

祖父母の障がい理解やその支援

Q 両親は障がいを受け入れつつあるが、祖父母の受け入れや協力が難しい。
Q 祖父が障がいを受け入れられず、子どもの症状が悪化しているようで…

保護者への子育て支援

Q 保護者の協力を得にくい。
Q 様々な訓練施設や教室などに通わせ、子どもがストレスを感じている様子。
Q 家庭での生活リズムが不規則。どのような協力を求めていくと良いか。
Q 「叱る」、「かまわない」といった対応が目立つ保護者。どのような支援をすると良いか。
Q 母親にも同じような傾向？ 育児もうまくいっていないようで、うつ的な症状も見られる。

きょうだいへの支援

Q 自閉症のある子どものきょうだいへの支援について知りたい。

7. 周囲の子どもたちやその保護者への支援 P31

Q 周囲の子どもたちへの支援について配慮する点は？
Q 周囲の子どもへの保護者たちへの対応は？
Q 苦情があった場合の対応について知りたい。

8. 園内の支援体制について P32

求められる機能・人員体制・カリキュラム

Q 保育所や幼稚園に期待する機能は？
Q 長時間保育の子どもは、保育者を交代する必要があるが、これ以上人を増やせない…
Q 視覚支援などをしたいが、職員が足りず、言葉がけが多くなってしまう。
Q 担当が変わる。どのような配慮が必要か。
Q 独自の保育カリキュラムを作る必要があるか？

発達障がいの見極めは必要？

Q 障がい特性か、わがままか？
Q 養育環境の問題か、発達障がいか。
Q 保健師から「様子を見ましょう」と言われている。発達障がいかどうかの見極めるは？

9. 他の支援機関との連携について P35

Q 専門機関へ相談したい。
Q 専門機関と連携したい。
Q 身辺自立の面で援助が必要。どこまで他の子どもとのかかわりを持たせると良いか。支援機関との連携は？
Q 専門機関の支援方法等を知りたい。
Q 小学校との連携は必要でしょうか。
Q 進路の方針が、保護者と違う… 教育委員会との連携は？
Q 親の会について知りたい。
Q 研究会などの情報が入ってこない。

10. 関係制度の利用について P38

Q 加配の保育士をつける基準は？
Q 経済的な支援はあるか？
Q 障がい者手帳について知りたい。

II 広汎性発達障がいとは

III 資料 ～障がい児療育のための施設、機関案内

I 自閉症等の広汎性発達障がいや「気になる」子どもへの支援Q&A

1 対人関係・友だちとのつきあいなどの特徴に関する理解と支援

集団活動への参加

Q 集団行動へ参加させたい

question

広汎性発達障がいのある年中の男児で、個別の支援を行っています。活動内容を順序立てて見通しが持てるようにしていますが、活動の途中で別な事柄に興味を持ち、なかなか目標までたどりつけない時があります。友だちとのかかわりを楽しみと感じられるようになってきたので、人とのかかわりの中で目標を達成できるように配慮し、集団行動へも参加できるような支援の仕方を知りたい。

A

answer

活動の内容を具体的に、なるべく同じ手順で繰り返すことで、見通しを持って活動に参加できるようになっているようですね。先生方のきめ細かな配慮がうかがえます。最後まできちんと参加できないとのことですが、子どもさんはどの段階にいらっしゃいますか？

- ① まだ注意が持続できる時間が短い
- ② 活動がちょっと難しくて嫌になってしまう
- ③ 興味が持てない
- ④ すべきことやゴールはわかっているが、できる時とできない時の差が大きい。

まだ、少しの時間しか注意が持続できない子や、難しくて嫌になってしまう子の場合、ちょっとでも参加できたことを評価してあげましょう。できそうなところから参加し、少しずつ時間を延ばしていくなど、「スモールステップ」で進めていくことがポイントで、少しずつでも参加できたことを褒め続けることで、子どもたちが自信をつけていくこと、自尊心（セルフ・エスティーム）を高めしていくことが大切だと思います。

興味が持てない場合は、興味が向くまで誘いながら別の活動で時間をつぶしたり、ごほうびを工夫したり、子どもさんの発達に応じて対策を考えてみましょう。

できるけど、ムラがある場合、これがやっかいですよね。どうしてムラが出てしまうのでしょうか。体調・気分・実はしたくなかったことに気づいて葛藤している・自分としてはもう十分できるのにどうして練習しなくちゃいけないの？と思っている・注意欠陥／多動性障がいに似た症状があるなどなど。理由が少しでもわかると対応が思いつくものです。自閉症で活発な子どもさんは、命令されるのが大嫌いな傾向があるので、「あー楽しそう!」「○○してる!」などと活動に注意が向くようにジェスチャーと音声で誘ってみたり、お気に入りの子に「おいで!」と誘ってもらったりするほうが、うまく活動に乗ってくれるかもしれません。

自閉症の子どもたちは、そもそも社会性の障がいがあり、同年齢の子どもたちとの関係をとることが苦手な子どもたちです。また、言葉の遅れ等のコミュニケーションの特徴や、こだわり等の想像力の特徴もあり、集団行動への参加については、私たちが想像する以上に、不安や緊張を持っているかもしれないと考えてあげる必要があることを忘れてはならないように思います。

Q 次の活動に移れない。どこまで集団活動を意識させれば良いのか

question

未満児より入園した自閉症の幼児。最近こだわりや執着がますます強くなってきました。園での活動でも好きなことだけしかしなかったり、1つの動作や遊びにこだわって次の活動に移れなかったりします。このような幼児に対し、どこまで集団の活動を意識して保育を行っていけば良いのでしょうか？

A

answer

せっかく園に来てくれているのだから、何か集団を経験させてあげたいという気持ちはよくわかります。まずは、子どもさんの集団における適応行動を獲得するための発達過程を確認してみましょう。RDI (対人関係発達指導演法) を参考にすると、

- ① 特定の大人との関わりを楽しめる
- ② 子ども2人であれば楽しく遊べる
- ③ 数人の子どもとルールのある遊びができる
- ④ 集団で活動できる

という段階があるそうです。

このような発達段階を参考にしながら、対象の子どもさんの周りに見えないカプセルを作ること意識し、その中に入れる人数に気をつけると、きっと集団の中でも安定して生活できるのかもしれないし、2~3人の先生と1対1の信頼関係を作って、できることから参加させてみるころからスタートしても良いでしょう。

また、自閉症のある子どもさんは、気持ちの切り替えが難しいところがあると思いますので、次のような点に留意した支援をしてみたいかがでしょうか。

- 1日の活動のスケジュール・予定表を視覚的に伝える。
- 1つ1つの活動のはじまりや、終わりを予告する。その際も、絵・写真・時計など具体物で視覚的に伝える。携帯用カードが便利かもしれません。
- どのように終わるのかをわかりやすい環境にしておく。写真付きのラベルをおもちゃ箱などに貼り、どこに何を片付けるのかわかりやすくする工夫など。
- 子どもが参加しやすい活動から始める。

ただし、注意しておきたい点もあります。東田直樹さんは、著書「自閉症の僕が跳びはねる理由」の中で、「手順や物についての説明、作り方などは、視覚的に絵や写真などを使って教えてもらった方が助かります。でも修学旅行や校外学習などは、あまり現地の写真を見せられると楽しみが減ってしまいます」と述べています。どのような視覚支援を行うのか、一人一人違うかもしれません。1度の工夫でうまくいくことはないかもしれません。保育者仲間とともに試行錯誤し、どのような工夫・伝え方をすれば、子どもたちに伝わるのか、また子どもたちの気持ちが保育者に伝わりやすくなるのかを考えて欲しいと思います。



Q 集団参加での配慮は？

question

6歳の男児。自閉症の診断。就学を前にして、人に合わせる力を育てたいと思い、クラスでの活動を一緒にと心がけていますが、集団での活動は難しいことが多く、子どもの様子を見て、参加したり途中で抜けたりしています。本人の気分次第という時もあり、やる・やらないの判断が間違っていなかったのかと思ってしまいます。集団へのかかわりで気をつけなければいけないことなど、どんな配慮が必要でしょうか。

A

answer

子どもさんの発達の状況はどのレベルで、子どもさんは集団活動をどのように感じているのでしょうか。まず、観察してみましょ。TEACCHでは幼児期の社会性を育てる基本は、人や集団がつかない、一緒にいると良いことがあるかもしれないと期待できる事だと考えられています。最も配慮したいのはこの点だと思います。この子どもさんができそうな事を、できるように準備して参加させ、成功へ導いてあげる。その結果、友だちから受け入れてもらえたり認めてもらえると、次のステップは自分で登ってくれるかもしれません。参加するかしないかを決めるのは子ども自身。それをお手伝いして「くろこ」を楽しみましょう。めざせ!監督賞!助演男優賞!助演女優賞!

一方、運動会やお遊戯会などの特別な行事には、ぜひとも参加させたいという保育者や保護者の思いがあります。そういった活動には保育者と保護者でどういった参加の方法が良いのか、よく話し合いながら進めると良いと思います。

Q 興味のない活動にも参加させたい

question

年長の男児。広汎性発達障がいの診断。自分の興味のある活動には参加するのだが、興味のない活動だとお部屋の後ろの方にいます。時々「一緒にやってみよう」と声がけするのだが、参加しない時の方が多い。どのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

「興味がある」「興味がない」というのは保育者側の印象だと思いますが、「興味がある活動」=「楽しく安心して遊べる活動」、「興味がない活動」=「不安で遊び方もよくわからない活動」と考えてみてはどうでしょうか。どの活動にも他の子どもたちと同じように参加できることが望ましいのですが、まず参加できている活動の中でみんなと楽しく遊べた、上手くできたという体験を共有できることが大切だと思います。

一方、参加できていない活動については、例えば、その活動のルールがわからない、参加する理由がわからない、苦手な音がある、体に触れられるので嫌だなど、参加できない理由を想像してあげられると良いかもしれません。

Q 受身的で拒否できない。問題となる行動はないが・・・

question

年中の男児。高機能自閉症の診断。自由時間は、砂遊びなど一人遊びが多いが、受身的なところがあって、嫌と言えず、集団活動では大きな問題を起こすことなく時間を過ごすことができます。このままの対応で良いのでしょうか。

A

answer

通常、なかなか自閉症と気がつかれにくいタイプだと思われます。問題となる行動が少ないので、見逃されやすいかもしれませんが、本児の気持ちを代弁したりしながら、表面的には見えないヘルプサインを汲み取ってあげたり、人と人とのやりとりの中で気持ちを伝え合えるような体験を増やしていけると良いと思います。

コラム1 TEACCHプログラムとは

TEACCH (Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped CHildren) プログラムはアメリカのノースカロライナ大学のシュバラー教授らによって1960年代半ばから始められ、自閉症とその家族を支援するために研究・開発されたものです。自閉症のある人たちが社会の中で有意義に暮らし、できるだけ自立した行動をできるように支援することを目的としています。

自閉症のある本人を治療しよう、変えようというのではなく、個々の自閉症特性を正しく理解したうえで、個々の自閉症のある人に合った理解しやすい環境を構築することにより、自閉症のある人の社会適応を促す方法論をとっています。これを「構造化」といいます。

構造化はいくつかの分野に分けて説明されています。物理的構造化（環境の構造化）・時間の構造化（スケジュール）・作業の構造化（ワークシステム）などがあります。

例えば、時間の構造化（スケジュール）ですが、私たちは時間を見て次に何をすることがわかりますが、自閉症の人の中には見通しが持てない人が多く、そのために予定に変化があったりするとパニックを引き起こすことがあります。よって、次に何を行うかなどをわかりやすく文字や絵、写真、シンボルなどで伝えるスケジュールは、自閉症の人にとって見通しを持つことができる極めて重要な構造化の一つです。

また、私たちの生活の中にも構造化されたアイデアがたくさんあります。視覚障害者のための点字ブロック、シャンプー・リンスやビールにも点字で示されている事や、聴覚障害者の為のTVの字幕などや、肢体不自由者の為のスロープ・エレベーター・改造トイレなど。また一般人にとっては、非常口の案内・信号機・ごみ箱・駐車場など。このようなわかりや目印は私たちの行動にとっても強い味方となってくれます。認知・行動等の面で問題を抱えている自閉症の人たちにとってはなおのこと、こうしたアイデアが有効な手助けとなります。保育所、幼稚園、学校などで視覚支援や構造化による支援をしても社会に出てから使えないのではないかといった疑問があるかもしれませんが、今の世の中、意外と構造化・ビジュアル化されていることが多いと思います。



山形放送	山形テレビ	山形テレビ	山形テレビ	NHK総合	NHK教育
4.50 山形ニュース 7:00 山形朝刊	4.50 山形ニュース 7:00 山形朝刊	4.50 山形ニュース 7:00 山形朝刊	4.50 山形ニュース 7:00 山形朝刊	4.30 山形朝刊	4.30 山形朝刊
6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊
7 山形朝刊	7 山形朝刊	7 山形朝刊	7 山形朝刊	7 山形朝刊	7 山形朝刊
8 山形朝刊	8 山形朝刊	8 山形朝刊	8 山形朝刊	8 山形朝刊	8 山形朝刊
9 山形朝刊	9 山形朝刊	9 山形朝刊	9 山形朝刊	9 山形朝刊	9 山形朝刊
10 山形朝刊	10 山形朝刊	10 山形朝刊	10 山形朝刊	10 山形朝刊	10 山形朝刊
11 山形朝刊	11 山形朝刊	11 山形朝刊	11 山形朝刊	11 山形朝刊	11 山形朝刊
0 山形朝刊	0 山形朝刊	0 山形朝刊	0 山形朝刊	0 山形朝刊	0 山形朝刊
1 山形朝刊	1 山形朝刊	1 山形朝刊	1 山形朝刊	1 山形朝刊	1 山形朝刊
2 山形朝刊	2 山形朝刊	2 山形朝刊	2 山形朝刊	2 山形朝刊	2 山形朝刊
3 山形朝刊	3 山形朝刊	3 山形朝刊	3 山形朝刊	3 山形朝刊	3 山形朝刊
4 山形朝刊	4 山形朝刊	4 山形朝刊	4 山形朝刊	4 山形朝刊	4 山形朝刊
5 山形朝刊	5 山形朝刊	5 山形朝刊	5 山形朝刊	5 山形朝刊	5 山形朝刊
6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊	6 山形朝刊

友だちとの関係

Q 友だちに声をかけられない

question

4歳の女児。広汎性発達障がいの診断。同年齢の子とかかわったり、遊んだりすることが難しく、友だちと仲よくしたいという気持ちがあって、友だちのそばにはいるものの、一人で遊んでいることが多い。自分から他の子どもたちに声をかけていくことができないため、保育士が本児の気持ちを代弁して友だちに伝えることでかかわりの場を多く作っているところです。このままのかかわり方でよいのでしょうか。どのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

子どもの社会性の発達には、個人差があり、なかなか同年齢の子どもたちとのかかわりがうまくできない子どもたちもいるでしょう。自閉症の子どもたちは、その典型ですので、保育者が子どもの気持ちを代弁して友だちに伝えることは、良いかかわり方だと思います。

まずは、友だちと一緒にいることは楽しいことだ、心地よいものだという雰囲気作りを続けましょう。無理やりかかわらせようとすれば、かえって一緒にいることに苦痛を感じてしまうかもしれません。好きな遊びなどを通じて、少しずつ友だちとかかわれる時間を増やしていけると良いと思います。

Q

自身は楽しそうだが、ルールが覚えられず、友だちと仲良く遊べない

question

5歳の男児。自閉症の診断。友だちとのかかわりも増え、「かして」「いれて」等、言葉で伝えられるようになりました。しかし、集団遊び、ドッジボール等、難しいルールが理解できず走り回り（横切るなど）、周りの友だちの邪魔をしてしまいます。本児なりに楽しんでいるのでやめさせたくはないのですが、周りの友だちのことを考えると本児にどのようなルールや決まりを作ったら良いのでしょうか？

A

answer

集団の中で発達障がいのある子どもの能力を育てる時、発達期にある他の友だちへの配慮って気になりますよね。特にルールを教えたい暦年齢を受け持っている時は、教えたいルールと個別の配慮が、全く正反対のように感じて、とまどうことも多いと思います。

集団遊びでは、やはり集団のルールを優先すべきだと思います。この子どもさんは、ドッジボールのルールを理解できそうな発達状況ですか？絵に描いたり、ぬいぐるみやパペットを使ってロールプレイすることでルールを伝えられそうですか？こういう配慮って、定型発達の子どもたちにも有効です。ルールを伝える時に、「ルールがわからなくて違うことをした子は、1回休み（椅子とストップウォッチを用意）」と他の子にも同じルールを伝えてみましょう。ドッジボールのルールがわかる発達状況であれば、1回休みのルールも理解できるはず。なにより、不公平感がありません。

もし、ルールが理解できない発達状況であれば、初めの1投は対象の子どもさんに投げさせる、ゲームの邪魔にならないタイミングでコートを横切らせる、などのできる範囲での参加を考えたり、別の活動で友だちとの関わりを持るといいですね。大切なのは、対象となっている子どもさんと、周りの子どもさんが両方も楽しそうに過ごせていることです。何か特別なことがあっても、いやな雰囲気にならなければ、結果オーライです。何があっても、笑って過ごせてしまう子どもたちの明るいエネルギーを信じてみましょう。

子どもの遊び方は成長とともに複雑になり、一定のルールを理解しなければならないことも当然出てきます。ただし、ルールを理解することも大切ですが、友だちと一緒に楽しく遊ぶという体験の共有も大切な視点です。保育者側がルールにこだわりすぎず、理解しやすいルールから導入し、最終的に一定のルールの理解までステップアップしていけると良いと思います。その際、自閉症のある子どもたちは、目で見えないことを理解することが苦手だと思いますので、絵や写真などで説明をしたり、見本を見せたり、一緒に行動（モデルとなる）して伝えたりといった工夫をして欲しいと思います。

2 コミュニケーション(言葉の理解や表出など)の特徴に関する理解と支援

Q 自閉症のある子どもとのコミュニケーションのきっかけをつかみたい

question

自閉症のある子どもとコミュニケーションをとるきっかけがつかめません。自閉症のある子どもと「心を通わせる」には、どのようなかかわりが有効でしょうか。

A

answer

自閉症の子どもたちへの声かけには、CCQという原則があるとされています(最初のCはClose「近づいて」、次のCはCalm「穏やかに」、QはQuiet「静かに」)が、保育者は、自閉症の子どもたちの世界、心の中(何を好み、どのように振舞うと喜ぶのかなど)を想像し、子どもたちに近づいて、穏やかに、静かに語りかけることを積み重ねることが、人への安心感、人を信じるという気持ちを育てていくと思います。なかなか人に気づいてくれない子どもさんに、気づいてもらうきっかけ作りは、対象の子どもさんの音声模倣や身体模倣を試みたり、感覚おもちゃを見せたり、触らせたり、くすぐってみたり…。そんな時、一瞬でも「んっ?」「にっ!」と支援者の顔を見てくれたら大成功です。繰り返していくうちに気持ちに通じてくるかもしれません。支援者が楽しく感じられることが大切なので、あなたのスタイルを大切にしてください。

自閉症の東田直樹さんは著書の中で「声だけで人の気配を感じたり、自分に問いかけていいる言葉だと理解したりすることは、とても難しいのです。声をかける前に名前を呼んでもらって、僕が気づいてから話かけてもらえると助かります」と述べています。定型発達の人たちは、誰が誰に話しかけているのかといったことは、一定の年齢になればそれほど意識しなくても理解し合えるものですが、自閉症のある方々は、そのあたりに配慮が必要だと思います。

Q 表面的な会話はできるが、一方的になりがちなところも…

question

年中の男児で、アスペルガー症候群との診断。人とのかかわり、遊びの中で、一方的に自分の思い通りにしたがる姿が見られます。しかし、何が何でも自分の思いを押し通すのではなく、相手に強く言われれば「うん、わかった」「いいよ」と引いたり、「嫌だ」と言われればやめるため、トラブルになることもあまりありません。表面上の会話はスムーズに行いますが、友だちとの会話の中で一緒にどうするかを考えたり、話し合ったりする等、深い部分での会話がなかなか成り立たないのですが、どのような援助が必要でしょうか?

A

answer

アスペルガー症候群や高機能自閉症のある子どもたちは、表面的には一定の会話ができているように感じられると思いますが、一方的になってしまったり、話し合いのような相互交渉的なやりとりは苦手です。表面的にできているようでも、実際はストレスになっていたり、笑っていても実際は楽しんでいない、むしろ苦痛といたりすることが見られる時があります。人と人とのかかわりの中で、自分の気持ちを相手に理解してもらえた、相手の気持ちを理解することができた、一緒に楽しい活動ができたといった体験を積み重ねていくことがポイントだと思います。

この子どもさんの場合、年中さんでちょっと強引だけど、相手に譲れるのであれば、ますますだと思えますよ。アスペルガーの子どもさんは4年生くらいまで、長い時間をかけて、相手の気持ちに気付いていくようです。本人ががんばってルールを守っていることを認めて、友だちとかかわりたい意欲を大切に育て、関わりが維持できれば、子ども同士の対等な関わりの中で、押しの強さや引くタイミングを子ども本人が学んでいけるでしょう。きっと、ルールや友だちのうざったさにめげそうになる時があると思います。その時は、「疲れちゃった・いやになっちゃった」という気持ちを受け止めて、また仲間のもとに戻れるように支援してあげてください。

Q 指示が通らない。返事がオウム返しになることも…

question

入園してまもなく1年がたつ年少の女兒。なかなか自分から声を出せず、友だちとの会話もかわりもほとんどなく、ママごとをしている友だちの様子を見て、自分もしているかのように満足しています。本人の唯一好きな遊びはママごとのようです。また、一斉活動では、1回で指示が通らず何度も個人的に声をかけないと伝わりません。教師の問いかけにすべてうなずき、時々オウム返しにもなります。こういった様子が家庭でも見られるようです。どのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

まだまだ、マイワールドの強い子どもさんのようです。周囲の働きかけに対する反応が弱く、一人を好んでいるように見えます。一方で、受身な態度も見受けられます。どのように近づいて、こちらに引き付けていくか、戦略が必要そうです。第一印象は、不安・緊張が強くて、人からの働きかけに固まってしまうタイプで、それが頑固に感じられたり、人の話しを聞いていないように見えるのかもしれませんが。一通り他の子どもさんと同じことはできるけれど、言葉の理解と表出が突出して困難が強いのかもかもしれません。

自閉症のある子どもたちの中には、オウム返し、つまり言われた質問を繰り返すという症状が見られることがあります。言われたことがわからずに、ただ繰り返しているだけかもしれません。また、質問を繰り返すことによって、聞かれたことの意味や場面を考えているのかもしれませんが。いずれにしても、保育者側の質問があまりよく伝わっていないのかもしれませんが。

もう1点は、うなずきについて。これは、本当に聞かれたことの意味を理解していない場合と、とりあえず怖いから、受けの良いyesで答えている場合があります。自閉症のある子どもたちは、なかなか周囲の期待が伝わりにくい子どもたちですので、少なくとも指示された行動がとれないのであれば、まずは言われたことを理解していなかったのだと考えてみるのがスタートだと思います。

ご質問いただいた先生は子どもをしっかり観察なさっているようです。子どもの行動から、子どもの意欲や意思を読み取り、対象の子どもさんと先生が楽しく遊び、その中に他の子を巻き込むのはいかがでしょうか。楽しく遊べるようになると、意外に活発な子どもさんかもしれませんよ。ママごとが好きそうなのであれば、まずは保育者と子どもでママごとをしてみてもどうでしょうか。園内でママごとをすることに安心してきている様子ができたら、次に子どもたち同士のママごとに移行していけると良いですね。



Q

空想の話をする

question

年中の女兒で、高機能の広汎性発達障がいとの診断。空想の話をよくする子どもで、話の内容がしっかり成立しているので、聞いている友だちはその内容を信じて聞いてしまいます。ところが、その内容は、存在しない空想のきょうだいの話。友だちがその子の家の人に本児から聞いたきょうだいの話をする、と、「うちには、きょうだいなんていないよ」と家の方は友だちに話します。その友だちは「だって〇〇ちゃんが、そう言ってたもん」と言い張り、家の方は少し不機嫌になってしまいました。話した本児、そして友だちに対してどう伝えていけばよいのか。

A

answer

「うそをついてはいけません」これは幼児期の大切なしつけの一つですよね。子どもたちは「うそ」に敏感です。「うそ」は相手の心理を操作して自分が何かしらの得を得たい、相手よりも優位に立ちたい場合に使います。

自閉症のある子どもたちは、相手の心理を操作することが苦手ですが、現実と空想の境がはっきりせず、思わず「うそ」つきになってしまうことがあります。「それは本当のお話ではなく、〇〇ちゃんの頭の中にあるお話だね」と空想と現実の境を意識させてあげたり、空想のお話には反応しないように気をつけたりする必要がありそうですね。対象の子どもさんのご家族は、子どもさんの空想を快く思っていないのかもしれませんがね。

「赤毛のアン」の主人公は空想が大好きなすてきな女の子です。マリアは困ったものだと思いますが、アンの現実世界を充実させてあげることで、アンの空想は次第に日常生活や対人関係に支障を来たさなくなります。空想は「うそ」という非倫理的な概念と結びつきやすく、心配に思われるかもしれませんが、自閉症のある子どもたちにとっては、安心できる逃げ場所かもしれません。ご家族の心配を受け止めながら、いろいろな側面の成長を共に感じていけるといいですね。

自閉症で知的障がいのない子どもは、表面的な会話はある程度できたり、時にはとても難しい言葉を使って大人びた話し方をする子どももいたりします。子どもの表面的な言葉や会話に引きずられすぎないようにしたいと思います。当事者である東田直樹さんは、著書の中で次のように述べています。「僕たちの話す言葉を信じ過ぎないでください。態度でも上手く気持ちを表現できないので難しいとは思いますが、僕たちの心の中をわかって欲しいのです。」と。



Q 同じ質問を繰り返す。質問攻め…

question

年中の男児。自閉症の診断。同じような質問を繰り返します。初対面の人にも同じように質問攻めをしてしまうことがあります。答えて欲しい回答でない、怒ってしまうこともあります。このような行動は、どのように理解し対応したら良いのでしょうか。

A

answer

「せんせい、くるま?(子)」「先生の車は赤です(先生)」「お母さんの車はトヨタです(母)」
そこで始めて子どもさんが車のメーカーを知りたかったのかとわかる。
「じーちゃん、じーちゃん!(子)」「お散歩です(母)」と答えて子どもは安心かと思いきや、
「その次は?(子)」「おうちです(母)」と答えても、繰り返して聞いてきたり…。

子どもさんが、繰り返して同じことを言う場合、3つのパターンがあるようです。こだわりと関連して、特定のことが知りたい場合と、同じ答えが返ってくると安心する場合、次の見通しがたえず不安になっている場合。いずれにしても、なるべく親切に子どもの期待に応じてあげるのが良いようです。

ただし、子どもの年齢が小さくて、かわいらしい場合、見ず知らずの人も笑顔で応対してくれるので、子どもは相手が迷惑していることをわかりません。側にいる大人がお礼を言って、次に気持ちを向けて早めに切り上げられるように支援しましょう。また、子どもの理解力に応じて「聞いてもいいですか?」と許可を得ることや、知らない人には声をかけないように支援してもいいですね。さらには、同じ答えを求めてくる場合、質問の回数を3回までとあらかじめ予告する、逆に「なんだっけ?」と質問することも有効でしょう。

次の予定を繰り返して聞いてくる場合は、視覚的に予定を示して不安を増長させないことが大切です。一種のマイブームなので、いずれ無くなります。長い場合は1~2年かかることもあって、大変ですが、できる範囲でつきあってみてください。

Q 冗談が通じない。言葉も字義通りの解釈をし、話がかみ合わないことも…

question

年長の男児。アスペルガー症候群の診断。友だちや先生との1対1の会話はある程度可能ですが、会話をしていると、冗談が通じず字義通りの解釈をするようなことがあります。また、太っている女の子に「デブ!」と言ってニコニコしているような時があります。本人に悪気はなさそうなのですが、どのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

ある自閉症の子に、「好きな色は? 好きなお菓子は? 好きなテレビは?」などと好みを聞くと、その子はその文脈の中で「好きなテレビは?」の質問に「赤いテレビ」と答えたそうです。「好きなテレビ番組は?」と聞くと正しく答えられるのですが…。また、ある成人の自閉症の方から携帯電話で相談があり、「今どちらにいらっしゃいますか?」と自宅なのか外出先なのかを訪ねると、「車庫です」とのお答え。「自宅ですか? 外出先ですか?」と聞けば良かったのかもしれないね。このように私たちの会話は文脈によって言葉を省略したりする場合もあるのですが、自閉症のある子どもたちにはそうしたニュアンスが伝わらないのです。悪気がないことを周りの子どもたちに理解してもらう必要もありますが、言っではいけないことに関しては、正していく必要があると思います。なお、間違いを訂正するときは個人的に、ほめるときはみんなの前でというのが原則だと思います。

Q

視覚支援・構造化の支援によって、言葉を覚えられない？

question

視覚支援や構造化という言葉を使いますが、かえって言葉を話せなくなる心配はありませんか？

A

answer

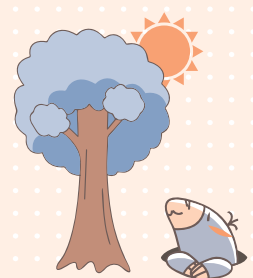
視覚支援や構造化という考え方で支援を行うことは、自閉症のある子どもたちへの支援のオーソドックスな考え方だと思います。そのことで言葉が話せなくなるのではという疑問があることも理解できますが、実際はそんなことはないようです。PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)という技法がありますが、子どもが多くの絵カードを使いこなせるようになると、言葉も増えてくるといわれているようです。ただし、気をつけなければならない点は、視覚支援や構造化は大人の都合を子どもたちに押し付けるものではないということです。視力が弱い人が眼鏡をかけるように、自閉症の子どもたちも視覚支援や構造化という配慮があることで生活しやすくなるということです。

コラム2 PECSとは

絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS: The Picture Exchange Communication System)は、1985年にアンディ・ボンディ博士(応用行動分析学専攻)とロリ・フロスト(言語聴覚士)により開発された、自閉症やその他のコミュニケーションの障がいをもつ人に、自発的なコミュニケーションを教えるための拡大/代替コミュニケーショントレーニングプログラムです。コミュニケーションの自発性に焦点を当てたものとして世界的に認知されています。

PECSは、フェイズ1～フェイズ6まであり、最初に自分からコミュニケーションすること(要求すること)を教えます。自発性を重視するPECSでは、子どもの自発的なコミュニケーションを引き出すために、その子どもの好きなものを使い、子どもの意欲を引き出しながらこのプログラムを進めていきます。最初に、好きなものが描いてある絵カードを実物と交換することから始め、その後、絵カードを要求する人のところに持っていき、絵カードを弁別し自分の欲しいものと一致したカードを選ぶこと、「○○ください」という文で要求することなどを順次教えていきます。

PECSでは、機能的コミュニケーションスキル(望んでいる結果を得るために他者に直接働きかけるのに適切な方法)の獲得を目的とし、言葉が話せるようになることを直接の目的としてはいませんが、結果的に話し言葉が発達したとの研究報告もあります。



3 想像力の特徴(こだわりなど)に対する理解と支援

Q こだわりが強い。思い通りにならないと、パニックや自傷行為が見られる

question

4歳の男児。自閉症との診断。こだわりが目立つようになってきました。今は電気へのこだわりが強く、消えているところはすべてつけようとします。また、思い通りにいかないと、パニック、自傷行為が見られます。このような時、どのような対応・配慮をしていくと良いのでしょうか。

Q 特定の友だちに執着。拒否されると、乱暴な行動や暴言…

question

4歳の女児。高機能自閉症との診断。こだわりが強く、特定の自分の好きな友だちに対して、自分と同じようにすることを強く求めたり(何度注意をしても同じことを繰り返す)、それを拒否されると叩いたり、かみつこうとしたり、「バカ」と言ったりする行動が見られます。それを止めようとする教師に対しても同じ姿が見られます。言われていることの意味がわからないのか、わざとやっているのかわかりません。別な方向に気が向くように誘いかけたりしますが、どのようにかわると良いのでしょうか。

A

answer

「こだわりは、消すのではなく、付き合いやすい形に変えていく。」これがこだわり対策の基本ですが、人を巻き込むこだわり行動は消すように努力するのが良いでしょう。特に同年代の子どもさんを巻き込む場合、早めに対処法を考えたいですね。まずは、ターゲットにされてしまった子どもさんと離す、先生に助けを求められるように支援する、強要している場面を見つけたら先生が間に入って、先生の方に注意を引き付けてターゲットになっている子どもさんを守ることが大切だと思います。高機能自閉症の女の子は相手の子どもさんを思い通りに動くおもちゃのように感じていて、相手の子どもさんははっきり「NO」が言えないおとなしいタイプだったり、やさしかったり賢くておげに拒否できないタイプが多いです。まず、相手の子どもさんを守ってあげてください。

こだわりのもう一つの原則は、「不安やストレスが強くなるとこだわりが強くなる。」です。ご家族と一緒に生活全般を見直して、自閉症支援をしっかりと組み立てましょう。

3つ目の原則は、「こだわりの強い子どもさんは上手に遊べない子が多い。」です。特に運動遊びが苦手な子どもさんが多いように感じます。よじ登る、飛び降りる、揺れや回転などの遊具遊びなどができるように支援してみてください。それから、一人で落ち着けるように、好きな感覚遊びを見つけてあげても良いかもしれません。

これらの自閉症支援を行いながら、役割を与える、場面を限定して子どもとかわるなど、心地良いかかわりができる場面が増えると良いですね。また、適切なかわり方も教えられるといいですね。

また、この高機能自閉症の女の子は、特定の友だちに対する好意を上手に表現できないのかもしれないかもしれません。自分と同じようにすることを求めることが1度・2度であれば、相手の子どもにとって許容範囲なのかもしれませんが、それが永遠と続くとしつこい行為となってしまいます。しかし、相手にしつこく思われているとか、嫌がられているといった点には気付きにくいのが自閉症の障がい特性の1つでもあります。その子どもの何が気になるのか、好きなのかは、なかなかわかりにくいかもしれません。他の人とはちょっと違ったしぐさがあるのかもしれませんが、手をつないだ感覚がとても心地よかったのかもしれませんが、いろいろな可能性を想像してみてください。

ただ、本人からすれば、悪気はないので自分の求めた行動を拒否されたということだけが心に残り、相手をたたたく、噛もうとする、悪口を言うなどの手っ取り早い方法で対処しているのかもしれませんが、「○○ちゃんは10回も同じことをさせられて、嫌な気持ちになっています。多くの友だちは、同じことを10回もさせられると嫌な気持ちになります。今度は2回までにしましょう。」などと伝えたり、本人や相手の気持ちなどを絵にしたりして伝えるといった工夫ができると良いかもしれません。

自閉症のある子どもたちのこだわり行動とその対応は、ケースバイケースでなかなか難しいものです。王道はないかもしれませんが、まずは子どもの世界、得意(特異)なことに寄り添ってみてはいかがでしょうか。こだわりはかわりかけのきっかけになるかもしれません。この先生は自分の好きなことを理解してくれる人だという安心感をもってもらえるとうれしいものです。

また、自傷行為への対応・配慮についてですが、どのような場面・状況で起るのかを観察し、予防策を検討してはいかがでしょうか。自傷行為そのものだけに注目しても、おそらくやめさせることはできないと思います。見通しの立つ生活の中で安心感や保育者などへの信頼感が育ってくることで、自傷行為をしなくてもよい状況に近づいていくのではないのでしょうか。また、思い通りにならない時などに適切な対処行動をとれるよう日々伝えていくことも必要だと思います。応用行動分析の考え方などを参考にされると良いでしょう。

Q 好きな遊具を横目でチラチラ…

question

3歳の男児。自閉症で知的障がいもあります。園外に出ると、柵やジャングルジムを横目使いにして何度も往復します。好んでその場に行き、直視できないのですがどうしてでしょうか。こだわりでしょうか？

A

answer

この子どもさんは何を好んでその場に行っているのでしょうか。通常は園庭に出て遊ぶことを好んでいると考えますが、例えばこのケースの場合など、柵やジャングルジムのます目を横目で眺めることそのものが心地よいということかもしれません。反射してくる光がきれいなのかもしれません。同じ形が等間隔で並んでいる姿そのものが心地よいのかもしれません。自分の手やストローなどを目の前でひらひらさせたり、格子から差し込む光を眺めたりすることを好むといった例もあります。ミニカーを並べて遊ぶ姿が見られるような子どもたちもいます。その子どもと一緒に柵やジャングルジムを同じように眺めてみてはどうでしょうか。直視する時とは違う風景が見えるかもしれません。子どもがどのようなものを好んでいるのかがわかってくると、柵やジャングルジム以外でも、何か好みそうなおもちゃなどを用意できることもあります。用意したおもちゃが、好みに合えば最高です。この先生は自分の好みをわかっている先生だという信頼・安心が芽生えることでしょう。

コラム3 応用行動分析(ABA)とは

応用行動分析 (Applied Behavior Analysis : ABA) は、さまざまな行動の原理を用いて、人間の行動をその人の利益や社会の利益になるように変容させていくことを目的としています。

応用行動分析では、ある行動が生じる流れを、先行事象 (行動の直前に起きた出来事) — 行動 — 後続事象 (その行動の直後に起きた出来事) の観点から観察し、この流れを操作することで行動の変容を促します。

例えば、子どもがお店で駄々をこねることでお菓子を買ってもらえた場合、「お店に行く」= 先行事象、「駄々をこねる」= 行動、「お菓子を買ってもらう」= 後続事象ということになります。子どもにとっては、駄々をこねることでほしいものが手に入った訳ですから、この行動は強化された (もっと起きるようになる) ことになり、今後維持される可能性があります。

このように、ある行動の前と後にどのような事象が起きていたのか、それが行動にどのように影響しているのか、行動の意図は何か、目的は何か、どんな役割を担っているのかといった、行動を維持している要因を見極め、その行動に影響を与えている先行事象と後続事象を操作することで、不適切な行動を適切な行動へと変化させたり、望ましい行動を新しく獲得させたりしていくことが、応用行動分析の手法です。先の「駄々をこねる」行動の目的は「ほしいものを手に入れる」ことであるため、この行動を変容させるためには、今後この子ができるほしいものを手に入れるためのより適切なやり方 (例えば、静かに買い物できたら好きなお菓子を買ってもらえる) を探り出し、周囲の環境をそれに合わせて変化させていくこと (駄々をこねることには反応しない、など) が必要となります。

応用行動分析では、行動の機能 (目的、意図、役割) に着目することにより、それまで子どもが起こしていた行動 (特に問題行動の場合) を、子どもの性格や障がいのせいにしてしがちであった傾向から、自分の対応を含めた周囲の環境を変えようという、より子どもを尊重した姿勢への転換がうながされることもあり、そういった意味でも効果的な指導法のひとつと考えられています。



Q 予定の変更が苦手。興奮したり、逃げ出したり、泣いたりしてしまう

question

5歳児・男児。自閉症の診断。予定の変更が苦手で、変更があると興奮することもあります。パニックが起きた時は、そっとしておさまるのを待ちますが、最近、活動の前に「それ嫌い!」と逃げたり、泣いたりします。どのように対応すると良いでしょうか。

A

answer

パニックへの対応は、何より予防が大切です。自閉症の子どもたちが抱きやすい不安を理解し、生活の見通しが持てるような配慮が必要だと思います。しかし、すべてのことが予定どおりであったり、安心できることばかりではないのが世の中です。予定の変更をなるべく早く知らせたり、条件付けを知らせる(例えば、晴れたらお散歩・雨の時はブロック)ことで対応できるかもしれません。また、予定に選択肢を入れる(保育室での遊びは予告していない3つの遊びの中から一人2つまで選べる、A班が決めるなど)ことで変化を楽しみにする気持ちを育てることができるとも思います。安心できる人と一緒に不安な見通しの立たない事態を乗り越えていくことが、集団生活への自信につながっていくと良いと思います。辛い時に助けを求められる人の存在は大きいと思います。

一方、実際にパニックが起ってしまった場合ですが、怪我をするような場合など緊急的な対応として制止しなければならないと思いますが、基本的には適切でない行動には注目をせず(注目してしまうと、パニックを起こせば要求が通るという誤解がうまれる可能性があります)、落ち着いてから原因を聞いたり、その時の気持ちを代弁してあげたり、どういう行動をとればよかったのかを具体的に伝えたりすると良いと思います。環境面の配慮としては、パニックが起きたときなどに、一人で静かに過ごせるスペースがあるといいでしょう。

Q 次の行動へスムーズに移れない

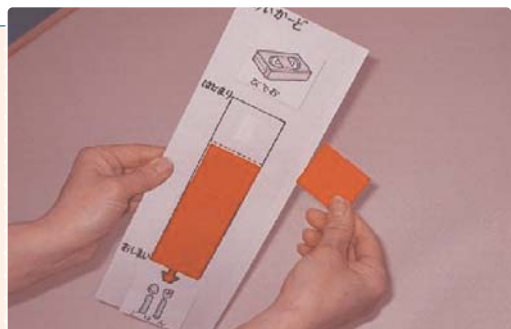
question

3歳の男児。広汎性発達障がいの診断。好きな遊びは集中してじっくり遊び、「おかたづけ」「ナイナイ」の言葉がけ、指差しで片付けることもありますが、お気に入りのおもちゃだとなかなか片付けられません。「1・2……10になったら〇〇だよ(次の行動)」と伝えても納得できず、怒っておもちゃを投げることがあります。スムーズに次の行動に移行するためには、どのように伝えていけばいいのでしょうか。

A

answer

「1・2……10になったら〇〇だよ」という工夫はとても良いものだと思いますが、その工夫が伝わる子どもと、伝わりにくい子どもがいると考えてみてはどうでしょうか。保育者が子どもに伝わりやすい言動をできているかという姿勢を持ち続けることが大切だと思います。いずれにしても、1回の工夫でうまく行かないことは多いようです。試行錯誤しながら、その子どもに伝わりやすい方法を考えていけると良いと思います。根気良くがんばりましょう。言葉で伝わらなければ、絵や写真などを使ったり、具体物を使ったり、歌で伝えるのも良いかもしれません。お気に入りのおもちゃを片付けられないということは、その次の活動がわからなかったり、とても不安だったり、お気に入りのおもちゃで遊ぶことで安心を得ようとしているのかもしれませんが。この保育者となら安心して行動できる、この園の中で過ごす時間はとても心地よいものだと感じてもらえるとうれしいと思います。



Q ピョンピョン跳びはねたり、手をヒラヒラさせたりしている。制止した方が良い?

question

ピョンピョン跳びはねたり、手を顔の前でひらひらさせたり、暇な時にパンツの中へ手をいれたりする癖のようなものが見られます。制止した方が良いのでしょうか。

A

answer

自閉症のある子どもたちの中には、トランポリンなど跳びはねることのできる遊具を好む子どもがいます。どのような感覚なのでしょう。当事者の東田直樹さんは著書の中で「跳んでいる自分の足、叩いている時の手など、自分の体の部分がよくわかるから」と述べています。癖のような行動には子どもたちなりの行動の意味・心地よさがあるように感じられます。無理に制止しても良いことはなさそうです。ただし、パンツの中へ手を入れるなど、人前では不適切な行為の場合は、介入が必要かもしれません。叱るのではなく、手を洗うことや、今何をすべき時間なのかを伝え、落ち着いて話を聞ける時には、「パンツに手を入れずに〇〇できるといいね」などとさりげなく伝えることができると良いと思います。

Q 高い所へ登ったり、外へ出て行ったり、危険な行動を制止したい。

question

3歳の男児。自閉症と診断。行動面において自閉症特有の高い所へ登ったり、外へ出て行くなど危険性を伴う行動が見られます。危険を制止する時の言葉がけやタイミングなど配慮する点を知りたい。

A

answer

こうした行動をとる子どもたちは、とても俊敏でちょっと目を離した際に・・・といったお話もあります。また、高いところに登ることの好きな子どもの場合、微妙なバランスで落ちそうで落ちないといった姿が見られることもあるかもしれませんが、担当の先生方は、毎日怪我をさせないようにという緊張でとても苦労されることと思います。こうした行動はどのようにして起こるのでしょうか。子どもの側に立ってみると、例えば高いところから眺める風景が心地よい、高いところの方が人がいないのでなんとなく安心できる、飛び出した先に子どもの大好きなものがあるなど、いろいろと子どもなりの理由があるのではないのでしょうか。

では、こうした行動にはどのような対応をすると良いのでしょうか。特効薬はないと思われませんが、緊急的な対応と日頃から配慮しておくことの2つの面から考えてみてはどうでしょうか。大怪我をするような危険な行動は、緊急的な対応として制止しなくてはならないでしょう。高いところに登っているような場合は、いきなり大きな声で制止すると、そのことがきっかけでバランスをくずしたり、ますますパニックになって高いところからいきなり飛び降りたりするかもしれませんので、「こっちにおいて」などして欲しい行動をやさしく短くシンプルに声がけしたり、「眺めがいいの?」「これで遊ぼう、待てるよ」と共感したり、こちらへ注意を引き付けたりするのも有効かもしれません。環境面では高いところに登りにくくしておいたり、登ってはいけない所や入ってはいけない所には「×」カードなどの視覚的な手がかりを使用したり、万が一迷子になってしまった時のために迷子札をつけておいたりといった工夫・配慮も良いでしょう。また、登っても良い場所を決めて、登りたそうにした時にそちらへ誘導するのも良いでしょう。登っても良い場所は、窓際で外が眺められて、飛び降りても危なくない場所が良いでしょう。

一方、そうした行動はどのようなときに起こるのでしょうか。1日の保育の流れをある程度理解し、保育者や子ども自身が選択して組み立てた日課に関心が向いていれば、そうした行動は減少するかもしれません。

なお、こうしたことは、担当の保育者一人に任せておかず、園全体で対応するということが大切です。ちょっと目を離してしまうということは、誰にでも起こりうることです。そうした時に、阿吽の呼吸で近くの保育者がさりげなく本来の活動に戻るよう促すといった連携がとれると良いと思います。

Q 2つ以上の指示を覚えられない。

question

8月で5歳になる女兒。広汎性発達障がいの診断。1度に2つ以上の指示をすると理解することができず、1つ1つ順番に活動しているところです。日常の身のまわりの始末など続けて行う活動を一人ですることが難しく保育士と確認しながら進めています。このようなときの保育や声かけはどのようにしていけばよいでしょうか。

A

answer

自閉症のある子どもたちの中には、2つ以上のことを同時に行ったり、考えたりすることに困難を示す子どもたちがいます。そもそも苦手なことであるという障がい特性から解釈し、理解をした上で、保育者は子どもたちが理解しやすい工夫をしながらコミュニケーションを図っていく必要があるでしょう。これまでのまとめのようなものになりますが、以下の点がポイントになると思っています。

- ① 刺激を取り除き、落ち着ける環境を用意する。
- ② ことばかけはゆっくり短く、統一してシンプルにする。
- ③ 活動の流れを絵や写真を使って視覚的に伝える。
- ④ 活動の区切りを明確に伝え、見通しを持たせる。
- ⑤ 課題に楽しく取り組み、達成感が味わえる工夫をする。
- ⑥ パニックには「しからないが譲らない」という姿勢で冷静に対応する。
- ⑦好きなことから興味の幅を広げる手助けをする。

※田中康雄監修「わかってほしい!気になる子」より抜粋

また、同様の考え方ですが、イギリスの自閉症協会では「SPELL」という自閉症教育の理念を提唱しています。

① STRUCTURE 構造化

日常のスケジュールや教室の配置等の環境を、子どもにより分かりやすく提示することです。「どこでそれは行われるか?」「なにが行われるか?」「どのくらい行われるか?」「終わった時はどうなるか?」「次になにが来るか?」をわかりやすく提示します。

② POSITIVE 肯定的アプローチ

自閉症は課題に対する動機付けが弱いので、達成できないほど難しい課題を設定するのではなく、達成可能である課題を設定し、成功的に課題が行えるように支援します。

③ EMPATHY 共感

一人ひとりの子どもが、どのように世界を感じ、どのように考え、どのように学び、どのようにコミュニケーションをとり、なにを楽しみ、興味をもち、なにが嫌いであるか、等々を理解し支援にあたります。

④ LOW AROUSAL 低い覚醒(興奮)

低い覚醒とは、覚醒させないことではありません。自閉症の子どもにとって、覚醒(興奮)してしまうような環境を減らすことにより、子どもが世界を意識しやすくし、不安や動揺を少なくし、混乱をさけるようにすることです。

⑤ LINKS 連携

優れた成功的なアプローチのためには、他機関との連携をとることが重要です。これは、両親や行政や他の機関等との連携も含まれます。

4 その他の障がい特性に対する理解と支援

Q 暗い場所や、ちょっとした音におびえるなど、感覚過敏がある。

question

4歳の女儿。自閉症の診断。感覚刺激に敏感で、暗い場所やちょっとした音におびえたり、人にさわられることを嫌がる姿があります。なれていない場所に行くとパニックになり、言葉でうまく表現できなくて涙してしまうときもあります。保育士が側につき、「今から～します」などと知らせて理解できるようにしています。このような時はどのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

予告は、大変有効な方法だと思います。大好きな先生から、次に何が起きるか教えてもらえると心の準備ができるし、気持ちが安定して、怖くても頭で考えて耐えられるようになり、さらに周囲への興味も広がることと思います。

一方で、自閉症のある子どもたちは、感覚が過敏あるいは鈍い場合があります。そもそも、視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚といった五感には障がいの有無に関わらず人によって違いはあるものですが、自閉症のある子どもたちの中には、様々な刺激の許容範囲（耐えられる範囲）が極端に狭かったり、広かったりする人たちがいるようです。雨や風があたるだけでも痛みを感じたり、見えない背中の中を感じにくかったりといった当事者のお話が著書で紹介されています。理解しにくい面もあるかもしれませんが、わがままではなく生理的に受け付けられないものなのだと考え、安心できる関係のできた職員や環境の中で、感覚障がいからくる不安や恐怖を少しずつ乗り越えていけると良いと思います。自閉症というと、対人関係、コミュニケーション、こだわりなどに注目がいきがちですが、こうした感覚の障がいに配慮するだけで、自閉症の子どもたちが生活しやすくなる場合があると思います。

Q お遊戯やリズム遊びの時間など、両耳を手でふさいでいる。

question

お遊戯やリズム遊びの時間など、両耳を手でふさいでいる姿が見られます。どのような支援をすると良いのでしょうか。

A

answer

定型の発達をしている人は通常聞きたいと思う音に集中できますが、自閉症のある子どもたちの場合、聞きたくない音でも聞こえてくる音量のまま聞こえてしまったり、時には苦痛を感じてしまう場合もあるようです。耳をふさいでいるのは、その時の音が苦痛だというサインだと思います。間違っても、「音に慣れなさい」と耳ふさぎをやめさせるといったことはしないで欲しいと思います。その音でなく代用できるものはないのか、出すのであれば予告をしてから出す、音量を下げる（音源から遠ざける）、苦手な音がする活動の場合は別室で違う活動をする、音が苦手だというヘルプを出せるようにするなどの工夫・配慮・検討などしていただけると良いと思います。保育園や幼稚園などの活動ですから、全くの無音で活動をすることは不可能だと思いますので、苦手な音を聞かなくてはならなかったとしても、この先生や友だちとなら、怖いことは起らず安心できた、何とかその時間を過ごすことができたという経験が力になっていくと良いと思います。耳栓やイヤーマフなどの道具が使える場合もあります。

Q 落ち着きがない。強制すると、暴れる。

question

年少の男児。アスペルガー症候群の疑いと診断。落ち着きがなく、椅子に長時間座っていることが難しい。無理に座らせると機嫌が悪くなり、暴れてしまうことがあります。どのようにかかると良いのでしょうか。

Q 精神的に不安定。思い通りにならないと、部屋を飛び出したり、反発したり…

question

年中の男児。広汎性発達障がいの診断。担任が変わり、クラスの雰囲気・生活の流れも変わり、この2か月ぐらいの間、気持ちの浮き沈みが激しく、イライラしがちで、すぐ怒り泣いてしまうことがあります。なかなか落ち着かず、場所を変えたりして落ち着いて話をしようとするが、難しく気持ちを引きずったままの状態も目立ちます。その時により、対応の仕方も変えたりしていますが、最近は馴れ合いになってきたせいか、何に対しても反発し、話を聞こうとしません。かんしゃくを起こした時、落ち着ける場所を作ってあげたが、最近では何か思い通りにいかなくなると廊下に飛び出してしまうなど…。それぞれの状況により対応は違うけれど、どんなことを心がけるとよいのでしょうか。

Q 薬を飲んでいる場合、配慮することは？

question

落ち着きのないタイプの子どものなどに薬が出されることがあると聞きました。園で配慮することはありますか？

A

answer

多動傾向のある子どもたちは、無理強いをしても保育者から離れていくだけかもしれません。興味ある活動を通じて落ち着いて行動できることをほめてあげて、落ち着いて行動することを好ましい行動であると意識できるような支援ができると良いと思います。10分も落ち着いていないと考えるより、10分も落ち着いて行動できるなどと、子どもの行動を好意的にみてあげることができると、子どものいろいろな良い面や可能性の発見があるかもしれません。

しかし、現場では教科書どおりにうまくはいかないものです。障がい特性や配慮すべき点などを理解しても、実際は一人一人生活環境や性格なども違いますので、支援の手立てもケースバイケースです。

馴れてきたと保育者側で思っている、子どもにとっては毎回新しい出来事の連続なのかもしれません。例えば、運動会やお遊戯等に今年上手く参加できたからといって、来年も同じような支援で上手く参加できる保障はないのです。学年が変わり、先生やクラスの仲間も変わったり、加わったりすると、それだけで子どもからすれば、大人が感じる以上に大きな変化なのかもしれません。振り出しにもどるような感じになるかもしれませんが、日々の生活の流れをイメージしやすいように、安心感をもってもらえるように丁寧なかかわりが必要なのかもしれません。

また、興奮や攻撃性が強い場合は5歳以降でリスパダールというお薬を使ったり、小学校以降になると、注意欠陥・多動性障がい(AD/HD)の子どもに、コンサータというお薬が出る場合もあります(就学前のお子さんにはあまり出されないようです)が、お薬が出たから障がい治るというものではありません。あくまで落ち着きがないとか、不安が強いなどの症状に対して出されているものです。

お薬にできることは、「落ち着きがない」、「不安が強い」、「衝動的」といった症状を和らげることで、「達成感」「自信」「やる気」「安心感」を持てるようになるためには、良い環境づくりが必要です。良い環境づくりには、家族や周りの人たちの理解と、行動の好循環が生まれるようなかかわりが大切です。お薬は、好ましい行動を引き出すためのサポートだということを注意する必要があると思います。また、お薬の必要性を判断するのは、医師です。保育者が、この子にはお薬が必要だとか、あると効くのに…などと保護者に伝えることは控えるべきと考えています。

5 生活習慣に関する支援

食 事

Q 箸を練習しているが、指先がうまく動かない…

question

4歳の女兒。自閉症の診断。食具はスプーン、フォークを使用しています。まだ握ったままの持ち方で食べています。正しい持ち方はわかっているものの、指先がうまく動かせないためからか、持ち変えても、また握ったままの形に戻ってしまいます。家庭では市販されている箸を使って練習しているとのことでしたが、園でも進めていった方がよいでしょうか。

A

answer

基本は楽しく食べることだと思います。将来的には、箸を使い食事のマナーを守れる子どもにという願いを否定するものではありませんが、箸でご飯を食べられるようになることを成長の証だと思わずにやらないようにしたいですね。スプーンやフォークを使ってもある程度こぼさずきれいに食べられることを評価してあげることも1つの方法ではないでしょうか。手先の不器用さなども伴っている場合などは、無理強いをして食事そのものが嫌いになってしまうことは避けたいですね。一回の食事ですべて正しい持ち方を2・3回だけでもできれば、一日で数回練習できます。また、いろいろな練習用の箸が売られています。子どもさんが嫌がらなければつかってみても良いと思います。遊びの中でおもちゃの箸を取り入れても良いかもしれませんし、好きな遊びなどで手先の巧緻性を伸ばしていくことなどを同時に行ってみても良いかもしれません。

Q 偏食がある。いろいろな食事・味を体験させたいが…

question

5歳の男児。自閉症の診断。偏食が多くなり、味わう前に食卓に並ぶのも嫌がってしまいます。特にヨーグルトやチョコレートなど、おやつに対しては食欲がありません。一方で好きなものは何度もおかわりをしたり、他の人の分まで欲しがったりしますが、泣き出した時は最後まで一口も食べないということも見られます。様々な味を体験させたいのですが、どのようにしたらよいでしょうか。

Q 偏食がひどい。落ち着きもなく、どのような支援をすると良いか？

question

3歳の男児。自閉症の診断。偏食がひどく、好きなものばかり食べたがったり、日によって食にムラがあります。また、じっと座って食事をする事ができず、すぐウロウロしてしまいます。このような幼児への食事の支援のポイントを教えてください。

A

answer

様々な食事を経験させたいという願いは大切ですが、あせりは禁物ですね。苦手な食べ物を強制的に食べさせられていると感じると、さらに食べられるもののレパートリーが減ってしまうかもしれません。最低限の栄養が摂れていれば大丈夫です。生活経験が増えると、不思議と食べられる種類も増えるものです。

当事者の東田直樹さんは著書の中で「自閉症の人にとっては、自分で食べ物だと感じたもの以外は、食べてもおいしくありません。(中略)きつとたくさんのおいしいと感じるまで、普通の人より時間がかかるからではないでしょうか。」と偏食についてコメントしています。今、食べられない食べ物ではありますが、将来食べられるように紹介し続ける(他の子どもや保育者がおいしそうに食べている姿を見てもらう、一緒に料理をするなど)ことは必要だと思います。繰り返しになりますがあせりは禁物だと思います。

なお、保護者と連携して食事の好みを知ること大切ですし、量を減らし食べるきっかけを与えたり、味付けや見た目など調理方法を変えてみたりなどの工夫も大切です。

また、課題は食事だけでしょうか。保育の1日の流れを理解し、活動に一定の参加ができていますでしょうか。視覚支援や構造化の考え方などを用いて、子どもが保育の1日の流れを理解できるような工夫・配慮をしつつ、食事の場面についても考えていけると良いのではないのでしょうか。食事は比較的場面設定がしやすく、パターン化しやすく、子どもにはわかりやすい活動だと思います。根気よく続けてください。

Q 水を蛇口から直接飲めない。コップに口をつけることも嫌がる。

question

3歳の男児。自閉症の診断。公園に散歩に行くと水道に近づいて水を飲みたがるのですが、蛇口から出る水を直接口につけて飲むことができず、水に手をつけて飲もうとします。コップに口をつけることを嫌がり、コップでも飲むことができません。ストローなら飲むことができます。食事の時、汁物も茶碗に口をつけることができません。どうしてなのでしょう。

A

answer

こうした行動の裏に隠れている何らかの原因を考える想像力が保育者たちの腕の見せ所なのだと思います。そのためには、自閉症の障がい特性などある程度理解しておく必要があります。自閉症のある子どもたちの中には感覚の障がいを伴っている方々がいます。コップの材質が心地悪い、コップから直接飲む時の水の量が多すぎて違和感があるなどです。また、過去にコップや茶碗から直接水分をとるといった行為で嫌な経験をしていないでしょうか。コップを見ると、過去の嫌な体験を思い出させているとなると、こうした行動の意味は理解ができます。すべての外れな場合もありますが、このように、いろいろと原因を想像し確認して、不快でないやり方を増やすことが良い支援のポイントだと思います。

Q 園では騒がず食事できるが、家では難しい様子。

question

3歳の男児。広汎性発達障がいの診断。1歳児クラスから入園し、園ではおやつも給食も椅子に座って騒がずなんでも食べてくれるのですが、家では動き回り大人のごちそうをつまみ食い状態とのこと。お腹がすいている様子で勢いよく食べる姿が見られますが、4月からは午前のおやつもなくなるため、家で朝食を食べてくるようにするにはどのような支援、配慮が必要でしょうか。

A

answer

食事をする時間であること、そこが食事をする場所であることなど、子どもが見通しをもって行動がとれているかがポイントのような気がします。園ではそうした見通しをもって食事をしてもらえるような配慮がなされているのだと思われますので、園で行っている工夫・配慮を保護者に伝えていけると良いですね。

ただし、家の中は物理的に園でしているような工夫・配慮をしにくい場合もありますので、全く園と同じものをといると酷かも知れませんが、例えば、テレビは消して布で隠す、おもちゃや絵本を見えないようにかたづけるなど、気が散らないように環境調整できると良いですね。また、子どもさんの食器を決めておく、ランチョンマットを敷くなど目で見て食事の準備ができたことがわかるようにするのも良いかもしれません。まず、子どもが走り回っても追いかけて口に運ぶのではなく、机に戻ってきて自分で食べることから始めるようにお話してみてください。

次に、「いただきます」をするまで食事することを待てるような手立てなどがあると良いと思われます。自閉症のある子どもたちは、「〇〇してはいけない」という期待が伝わりにくいところがありますので、1度で成功するものではないと思いますが、食事やおやつなどの場面で「いただきます」カードが出たところで、食事を開始するという習慣・ルールが身につくと良いですね。

一方、朝食が食べられないのは、マナーの問題というよりも、睡眠の問題があるかもしれませんね。もしかすると夜なかなか寝なくて、朝起きが悪くて食べられない、朝食の時間がないのかもしれない。生活のリズムを確認してみてください。もし、ご家族が一杯一杯で、きちんとできない状況の場合は、パンやヨーグルトを持って来てもらい、園で食べさせてあげてください。子どもさんが成長し、ご家族の生活が安定するまで、大変ですが、できる範囲で手助けしていただきたいと思います。



排 泄

Q 排泄の正しい方法を身につけさせたい。

question

3歳の男児。自閉症の診断。現在、排泄の面で、一通りのやり方を身につけるよう働きかけているところです。もともとトイレに行きたくなると、ズボンやパンツを所かまわず、その場で脱いでしまうので、脱ぐ前にトイレに行かせようとするのですが、かなり嫌がって抵抗します。自分の方法で出来ないことへのストレスか、最近はおしっこをかなり我慢するようになり、もらしてしまうことも多々あります。このまま、一定のやり方で根気よく続けていけばいいか、本人の負担になるようであれば、一旦やめたほうがいいのか悩んでいます。

A

answer

自閉症のある子どもたちは一旦身につけてしまった習慣を変えることに抵抗を示すことはよく聞かれる話です。明日からこれまでの方法を変えられるという特効薬はありませんが、一定のやり方を継続し、あせらず長い目で見ていくことは大切だと思います。しかし、一方でそのやり方が子どもにわかりやすいものになっていない場合は、やり方を見直したほうが良いと思われます。保育の1日のスケジュールにトイレの時間を設定したり、排泄の手順を絵カードで示したりしながら、正しい方法を身につけられると良いと思います。

Q 排尿間隔は長くなってきたが、排泄が自立できていない。どのような支援を？

question

4歳の女児。自閉症の診断。現在はトレーニングパンツ、午睡中からは紙パンツを使用しています。排尿間隔が極端に長く、園で生活している間、1度も出ないときがよくあります。たまに出たとしても午睡中に紙パンツにしています。園では決まった時間にトイレに促し、便器に座っていますが、尿が出る感覚はまだ身につけていないようです。どのような配慮が必要でしょうか。

Q 園のトイレで排泄しない。排尿間隔も長いようだが、大丈夫か？

question

アスペルガー障がいと診断された年長の女児。年中より入園したが、まだ園のトイレで排泄したことがありません。毎朝家で朝食後に排泄してから登園するものの、実際のところトイレ間隔も長いようです。身体的にこれで大丈夫なのか、又自宅以外のトイレでも無理なく排泄できるような環境づくりや援助方法について知りたい。

A

answer

自閉症のある子どもたちは、変化に弱いところがありますので、家ではトイレにいけるにもかかわらず、外出先では行けないといったことがあります。トイレに行きたくなる前に、トイレの場所や使い方などを見ておくと良いかもしれません。あせらずにすすめたいと思います。発熱などなければ、身体的に問題ありません。

排尿間隔が長いということであれば、尿を膀胱に一定量ためることはできるようになっているようですので、日課の中でトイレに行く時間を設け、その日のスケジュールの中でトイレの時間があるということを意識できるようになると良いと思います。トイレの時間は、おやつや食事の後1~2時間くらいが尿意を感じやすいと言われてしますので、その時間帯に設定してみてください。スケジュール表を使い、トイレに行くという行動を伝えるためのカードや、トイレでオシッコをしている様子を伝えるカードなどを用意すると良いでしょう。

また、園のトイレの空間が怖いと感じている場合もありますので、信頼関係のある保育者や友達と一緒に行って良いかもしれません。みんなと一緒に大勢いるところが苦手な場合もありますので、誰も行かない時間帯を設定するといった工夫も良いかもしれません。まず、儀式的でかまいませんので、トイレへ行く習慣をつけてみましょう。また、お風呂や行水など、水に触るとおしっこをしたくなる場合もあるようです。ちょっと長めに行水するのも良いかもしれません。



睡眠

Q 昼寝をしない。睡眠時間も不安定。どのような支援が良いか。

question

昼寝をしない。また、睡眠時間も不安定で、保護者も対応に困っています。園でできることはありますか。

A

answer

自閉症のある子どもたちは、睡眠に問題を抱える場合があります。びっくりするほど睡眠時間が短くても平気だったり、なかなか寝付けないけれど、眠ってしまうと長く深く眠るなどの症状が見られます。お昼寝ができない子どもは結構いるようです。お昼寝をすることで、夜の睡眠が妨げられてしまうこともあるようです。休日と平日のお昼寝と夜の睡眠パターンを比較して、お昼寝をしない方が夜しっかり眠れる様子であれば、園のお昼寝は控えると良いでしょう。また、午前中に太陽にしっかり当たると睡眠リズムがつくりやすいと言われていています。外遊びを心がけるのも良いかもしれません。基本的には、ある程度成長すると、睡眠のリズムが安定してくるようですので、あまり神経質にならなくても良いかもしれません。

製作活動

Q 手先が不器用。経験不足もあるようだが、どのような支援をすると良いか。

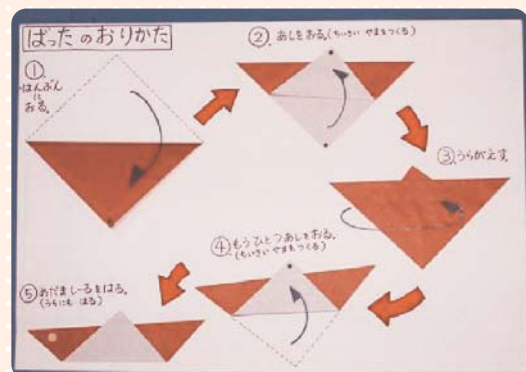
question

4歳の女兒。広汎性発達障がいの診断。製作活動で、はさみや鉛筆などをうまく使うことができません。はさみは今まで家庭で使用することがなかったようで、使い方もわからないため経験不足のところもあったようです。持ち方を知らせ、少しずつ練習しているところです。他にどのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

絵を描くことや製作活動などは経験的な要素に左右される面があるようですが、発達性協調運動障がいなどを伴っていたり、認知の問題があったりするような場合などは、手先をうまく動かせなかったり、形のイメージがつかめなかったりするようです。上手い、下手ではなく、楽しくやる気を持って活動に参加できているかといった点が大切なのではないでしょうか。もともと苦手だという意識がある場合もあるかもしれませんので、アニメのキャラクター、電車、虫、恐竜など子どもが興味を強く持っているようなものを題材にしたり、うつし絵やなぞり書きにしたり、一つ一つの手順を絵に書いたり実物を提示したりなど、楽しく参加できるような配慮があると良いでしょう。



登園渋り

Q 登園渋りが見られる。どのような配慮をすると良いか。

question

入園して半年が経ちますが、登園を渋る自閉症の子どもがいます。どのようなかかわりをしていけば良いでしょうか。

A

answer

なぜ、登園を渋るのか、理由・原因を探りたいですね。集団行動が嫌い、刺激が多すぎる、安心できる人や場所がない、変化が多いまたは大きくて対応できない、などが原因に考えられます。自閉症の3つの特性や感覚の特性からさらに要因を分析して、登園しやすい工夫を考えるとということだと思います。自閉症のある子どもたちには、集団活動や見通しの立たないことが苦手な面や、感覚過敏があったりするため、活動の見通しをもってもらえるような配慮やカームダウンできるスペースを確保するなどが必要かもしれません。保護者と連携し、子どもの好みや苦手なことを探り、好むことをきっかけに担当の保育者とのつながりを深めていったり、苦手なことを取り除いたりできると良いと思います。

Q 休み明けの調子が良くない。長期休みの過ごし方は？

question

休み明けの調子がよくありません。特に夏休みなどの長期休みの過ごし方について良い方法があれば教えてください。

A

answer

夏休みなどの長期休みは、それまで積み重ねてきた園や家庭での生活リズムが崩れやすいものです。基本的には保護者と連携して、なるべく生活のリズムを整えたり、ある程度1日のスケジュールを決めておいたりということになりますが、休み明けの調子が良くないという園側の気持ちを保護者に強調しすぎると、調子が良くないのは保護者の育て方のせいだと園から指摘されていると思われる場合もあるかもしれませんので、注意が必要なようです。保護者の精神的・体力的なゆとりが、子どもとのより良いかかわりにつながると思います。

また、長期休みの後はそれまで積み重ねてきたものが多少振り出しに戻ってしまったとしても、そうしたことは想定内だと割り切ることも必要かもしれません。1回目の休みの後よりも、2回目の休みの後のほうが調子が良い、2回目よりも3回目、3回目よりも4回目と、徐々に休み明けの調子の崩れが修正されていけばよいのではないのでしょうか。保護者へ、園が始まる3日ぐらい前から、日常生活のリズムを登園日と同じパターンに戻してもらおうようお願いしてみても良いかもしれません。調子の良し悪しも気になりますが、休みの期間にどんな楽しいことがあったのかなど、子どもと喜びを分かち合い、子どもが先生に楽しいことを伝えられた、喜んでもらったという経験が次の休みを楽しく迎えることができる励みになるのではないのでしょうか。

6 保護者やきょうだいなど家族に対する支援

「気になる」子どもの保護者への支援

Q 「気になる」子どもにも視覚的な支援は有効なようだが、保護者にどう感じるか心配。

question

年中の男児で発達障がいに関する診断は出ていません。落ち着いて生活することもできるのですが、ふざけたり、気持ちが盛り上がりすぎると保育士の声が届きません。好きな遊びからの切り替えも難しく、集団行動から外れて一人で遊び続けています。生活の見通しが持てるように視覚的支援をすると理解できることも多いのですが、このようなグレーゾーンの子に対する支援を保護者の方はどう感じられるかが心配。今後どのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

視覚支援や構造化は、定型発達の子どもたちにも有効です。私たちも、スーパーで欲しいものを探るときに頼りにする表示板、知らない道を運転するときに必要な標識、居間のベストセラーであるテレビ番組表、メールで自分の気持ちを有効に伝えたいときの絵文字など、視覚的構造化を積極的に利用しています。子どもが良い方向へ変わるとは家族にとってうれしいものです。まず、良いと思われる支援は積極的に使ってみて、家族と協力して使った方が良いと思われる場合は、保護者に、「このような支援をすると、こんな良い成果が現れた」などと、子どもの良い面を伝えたりしながら、普段から保護者との信頼関係づくりを進めていきたいと思います。

障がい受容

Q 専門機関を紹介したいが…

question

発達障がい児と認定を受けた子だけでなく、発達障がい児に近い行動をとる子が多く気にかかります。専門医による支援や訓練を受けることで集団の中でのパニックやトラブルも軽減されると思うのですが、保護者と保育者の子ども理解に差があるため、「専門機関へのすすめ」等に時間を要し、対応も遅れがちになります。保護者の思いをくみとりながら、なお適切な助言、支援をどのようにしていけばよいのでしょうか。

Q 子どもの様子を心配しているようだが、受け止められず、先に進まない。

question

2年保育で入園し、間もなく就学を迎える6歳の男児。成長するにつれ、同年齢の子との差が見られ、トラブルも増えてきました。入園当初から保護者に様子を伝えたり、面談を行ったが、保護者は子どもの姿に不安を感じているものの、その姿を受け止められず、先に進むことができません。こうした場合、どのように話を進めればよいのでしょうか。

Q 医師により診断が異なり、自閉症ではないという意見を信じてしまって…

question

4歳の男児。入園当初はスローペースな子とみていましたが、入園して1年が経とうとしている現在、どんどん周りの子との差が広がってきており、担任も進級するにあたって、どのように関わっていったら良いか日々悩みながら保育しています。かかりつけの小児科に行った際に、先生に自閉症ではないかと言われたと保護者より報告を受けましたが、別の医師では自閉症ではないとの判断で話は終わってしまいました。このように、保護者がなかなか受け入れられないという場合、どのように伝えていったら良いのでしょうか。

Q 順番を守れない。園では心配しているが、保護者は気にしていないようで…

question

6歳の男児。自分の興味のある事には集中して取り組みます。しかし、話を聞いたり、順番を待つということが苦手で集団行動がとれないことがあります。その都度声がけはしているのですが、どのようなかかわりが必要でしょうか。また、母親は気にしているものの本児に特別支援が必要とは思っていないようです。

A
answer

子どもさんのより良い成長を願って、保護者と話し合うけれどなかなか通じない。どうしたら良いか、という問題は全ての園で抱えている問題だと思います。先生方は、様々な子どもさんを担当した経験があり、発達障がいに関連した書籍などから情報を得たり、学習する機会にも恵まれていることと思います。今持っている情報から使えそうな支援を始めて、子どもさんが変わってくると保護者も園からの情報に寄り添ってくれるようになるかもしれません。先生が親身になって伝えた言葉は保護者にちゃんと届いています。受診につながる時期に遅い早いは無いです。周囲の大人、特にご家族が対象の子どもさんかわいいと大切に感じていることほど子どもにとって幸せなことはありません。診断がついたとしても、変わらずかわいい自分の子どもだと思える、診断があると少し育てやすくなるかもしれない、誰かに頼ってみようと思ってもらえれば大成功です。

「対応が遅れがち」ということですが、発達障がい、特に知的な障がいのない子どもたちの保護者が、子どもの障がいに気づいたり、受け入れたりすることには、そもそも時間を要することが多いようです。いわゆる「障がい受容」といいますが、保護者が障がいを受け止めていくまで、「①否認・拒否⇒②悲しみ・怒り・不安⇒③原因究明と取引(訓練)⇒④抑うつ⇒⑤受容」というステップをたどる「段階説」という考え方があります。また一方で、保護者は就学時、高校進学時など人生の節目ごとに悩み落胆を示すという「慢性悲哀説」という考え方もあります。

診断をうけていない場合、不安だが自分の子どもに障がいがあるとは認めたくないという段階(①)にあるのではないのでしょうか。保育者は、子どもの状態を受け入れていく保護者の不安や葛藤に理解を示しつつ、向き合っていく必要があると思います。

また、子どもさんがどのようなところに困り(障がいがあり)、どんな対応が良いのかを周りの人たちが理解することにも時間がかかることも多いでしょう。保護者が家の中で見る子どもさんの姿と、保育者が集団の中で見る子どもさんの姿には共通しない面も当然ありますので、保護者と保育者の子どもの状況理解に差が見られることもあるかもしれません。保育者は、日ごろから保護者が話しやすい態度をとり、保護者との信頼関係づくりに努め、相談があった時には専門機関等を紹介できる準備をしておくと思われれます。

3つ目の質問ですが、医師によって診断名が変わったり、年齢が上がって診断名が変わったりというお話も時々聞かれます。診断は支援の手立てを考える上でとても大切なものですが、目の前の子どもさんが園生活の中でどのようなところに困っていて、今どのような支援が必要なのかを考えることが大切だと思います。診断がなければ何もできない、何もしてはいけないというわけではありませんよね。自閉症であっても、なくても、子どもの行動が園生活に支障をきたすものであれば、何らかの支援をして良いと思います。

4つ目の質問についてです。子どもに何か問題がある、障がいがあると指摘されることは、保護者にとってとてもつらいことです。気づいていないふりをしたり、話題にされたくないという態度をとったりしながら、気にしていることから距離をおこうとしているのかもしれませんね。また、これまで一生懸命育ててきたつもりなのに良くなならない、もっとしっかり育てないからダメなんだと評価されたり、本人の努力が足りないなどと言われまいかという不安などがあるかもしれませんね。そうした保護者の葛藤や不安に寄り添い、保護者を責めているわけではなく、園の大切な子どもとして保護者と一緒により良い成長を促していきたいという思いを誠意をもって伝えることが大切だと思います。

また、園の先生から障がいがあるのではと指摘を受けたという相談を受けた支援者は、保護者が仮に指摘をした園に対して不信感を持っていたとしても、指摘をした園を責任ある対応をした園であることを保護者に伝えたいものです。それが、子どもさんのより良い成長のために誠意ある対応をした園との連携だと思います。

祖父母の障がい理解やその支援

Q 両親は障がいを受け入れつつあるが、祖父母の受け入れや協力が難しい。

question

4歳の女兒。両親は日頃から「会話中に視線が合わない」「会話が続かない」「さしすせその発音が上手くできない」等、気になることがあり、役所の相談員さんと話をする機会を設けました。現在、聾学校での聴力検査を終え、聴力には異常なく、今後1ヶ月に1回程度、聾学校へ通級する予定です。両親は本児の発達について少しずつ受け入れ、聾学校への通級も話しているが、祖父母はまだ受け入れられず、協力が難しいとのことでした。御家族に理解していただくためには園としてどのような配慮が必要でしょうか。

Q 祖父が障がいを受け入れられず、子どもの症状が悪化しているようで…

question

年長の男児。アスペルガーの診断。両親は障がいがあることを受け入れ、その子の特性にあった育て方をしているのですが、祖父は受け入れることができず、強制的なしつけをし、症状が悪化してしまいました。園側で特性を説明し、理解を求めるとその時は納得するのですが、また同じようなことを繰り返してしまいます。今後、どのような支援をしていけば良いのでしょうか。

A

answer

祖父母の理解や協力を得るのが難しいというお話はよく聞きます。以前と違い、子育ての方針や責任は両親が担うという風潮は強くなってきているように思います。また、障がいについて理解することは難しくとも、必要な支援については認めてもらえることが良いように思います。まず御両親がしっかり話し合い、子どもさんにとって何が必要か、どのようにかかわることが大切かを考えていただき、祖父母に説明していただくことが大切だと思います。最後に子育ての責任を担うのは親ですから、周囲はそれぞれの葛藤に耳を傾け、支援があるからこそ子どもさんが成長していることを一緒に確認できると良いですね。

保護者への子育て支援

Q 保護者の協力を得にくい。

question

年中の女兒。高機能広汎性発達障がいとの診断。毎日の生活の中で、自分のもの、特に靴下、ティッシュを使おうとした時に決まった場所がないとパニックになってしまうことがあります。決まった場所に片付けることもできるのですが、遊んでいるとティッシュを使ったまま、靴下を脱いだままにしてしまうことがあります。他の子が見つけて届けてくれるのですが、名前が書かれていなくて本児の所にすぐに届きません。困らない手だてとして、保護者の方へ決まった場所に入れることと名前を書くことを話しているのですが、保護者の方が名前を書く習慣がつかないようです。本児が困ることもわかっているのですが、どのように伝えていったらよいでしょうか。パニックが起きた時には伝えているのですが、あまり言われると、嫌な思いをさせてしまいそうで…。園としては持ち物全てへの記名をお願いしているのですが、本児の家族は障がいに対して受け入れをしていないので、あまり言うと「特別だから」と思いそうなのです。

A

answer

子どもさんと御家族についてしっかりと観察し、子どもさんにとって具体的にどのようにすると良いか方策を立て、御家族と話し合いもなさっていらっしゃる様子。園としてはできる限りの支援をしていらっしゃると思います。でも、きっと「何だか、御家族との距離があるなあ」と感じていらっしゃるって、園ではそれを不安に思っているからなのでしょう。

御家族は一時的に一杯一杯になってきちんとできなくなってしまう時期があるようです。個人差もありますが、そのような時期は受容的に園でできることは肩代わりして、そっとやったあげたほうが、御家族は立ち直りやすいように思います。前向きに積極的になってくると、園との距離も小さくなってくるとも思います。

全員の御家族に「名前のないものには、こちらで名前を書かせてもらうことがあります」と予告しておいて、必要時、名前を書いてあげても良いかもしれません。また、来園した時に先生と子どもさんが一緒に持ち物のチェックを楽しくすることで、子どもさんが自分自身で持ち物を意識するように支援できるかもしれません。

御家族も子どもさんと一緒に成長していくことを願って、支援していただけると良いと思います。

Q 様々な訓練施設や教室などに通わせ、子どもがストレスを感じている様子。

question

子どもの発達障がいについて、母親が何とか就学前に克服させたいと、様々な訓練施設や教室等に通わせ、子ども自身が多忙でストレスを感じているようです。母親が少しでも子どもを受け入れ、伸び伸びと過ごせるようにするには、どのように母親を支援したら良いでしょうか？

A

answer

前述した段階説「①否認・拒否⇒②悲しみ・怒り・不安⇒③原因究明と取引(訓練)⇒④抑うつ⇒⑤受容」の③の段階にあるようです。就学までに、何とか発達させたいと願っていらっしゃるんですね。もし、子どもさんが乱暴になった、顔色が悪い、やる気がないように思う、母親や大人の顔色ばかり見てオドオドしている、泣くことが多いなど、明らかに子どもさんが混乱していることが一因と思われる症状がある場合、家族と話し合ってみると良いと思います。その場で同意が得られることは少ないし、否定されたと非難されることもあると思いますが、子どもさんにとって必要と思われることは率直に話してみてください。大切なのは、家族の不安に配慮すること、提案するけれど決断するのはご家族という冷静で謙虚な姿勢だと思います。

様々なことをさせたいという積極的な思いのある保護者ですので、基本的には保護者のやり方を否定しない方が良いと思いますが、こうした保護者の積極的な思いに寄り添いつつも、スモールステップの考え方で子どもの自尊心(セルフエスティーム)を育てることの大切さを園生活の中で保護者にも伝えていけると良いと思います。いくつもの課題を与えることが、子どもの自尊心の育ちに役立っているのかどうかを保護者に考えていただけるような配慮です。また、親の会などを紹介し、親同士で子どもとの接し方について考えられる機会に参加できるような支援をしても良いと思います。

Q

家庭での生活リズムが不規則。どのような協力を求めていくと良いか。

question

3歳児で入園し、現在年中の男児。自閉症の診断を受け、週1回、支援施設に通っています。単語でしか話せませんが、徐々に語彙が増えています。また、友だちへの関心も見られています。しかし、家庭ではビデオ・ゲームで過ごすことも多く、生活リズムも不規則なところがあります。また母親と祖母との不仲などで家庭内での会話など少ないようです。家庭での積極的なかわりなどを求めるにはどのような配慮が必要でしょうか。

A

answer

家族機能の低下や子育ての姿勢に関する格差など、社会の変化を背景に、保育の担う役割の重要性が増してきています。子どものより良い発達を担う、子どもとその家族の社会参加を支える、子どもの安全を監視するなど、無くてはならない大切な役割を担っています。ご相談のケースは、母親の社会的孤立を予防することが必要そうです。まず、子どもさんの成長やかわいらしさを共有し、「園はお母さんの見方ですよ」というメッセージを伝え、家庭での養育困難を聞き出してみてください。困った事へのお返事であれば、前向きに聞いていただける可能性が高くなり、その中で先生方がお伝えしたいことを織り込むと不快に思われないうえです。

また、このケースも障がい理解について親世代と祖父母世代との間に溝がありそうです。こうした状況下では、子どもの行動に対する一貫した対応をとれず、結果として子どもの心を不安定にさせてしまうかもしれません。少なくとも母親が孤立して育児不安を強く持つてしまうことのないようにしたいと思います。

Q 「叱る」、「かまわない」といった対応が目立つ保護者。どのような支援をすると良いか。

question

他児への暴言があり対応に苦慮しています。母もこうした本児の行動にイライラしているようで、家庭内でも叱る場面が多い様子。また、最近はずもにかまわない面も見られます。幼稚園としてどのような支援ができるでしょうか。

A

answer

「子どもが暴言⇒母が叱る⇒いつも叱られてばかり、ムカつく、暴言がエスカレート⇒母も更に興奮、叱る」といった行動の悪循環に陥っているようです。この状態まで来ていると、「叱らずに、ほめてあげてほしい」とストレートに伝えてしまうと、育て方を批判されたと母親に思われてしまうかもしれません。ポイントは保育者は保護者の対応を責めず、良き話し相手として信頼関係を構築するということだと思います。

ただし、実際はうまくいかないこともあるかもしれません。保育者が保護者に普段から良いコミュニケーションをとれているか、正しい態度をとれているか、自身で確認したり、同僚などに確認してみたりすることも良いかもしれません。保護者等への対人援助技術を磨くことも、これからの保育者には求められると思います。

Q

母親にも同じような傾向？ 育児もうまくいっていないようで、うつ的な症状も見られる。

question

5歳の年中児。アスペルガー症候群の診断。母親にも似たような傾向が感じられ、母自身もそうした傾向を感じているようで、通院を検討しているようです。また、育児がうまくいかず、うつ的なところもうかがわれます。どのような配慮をすると良いでしょうか。

A

answer

まず、見かけたら声をかけるようにしてください。深刻でない話題が良いでしょう。うるさくない程度に具体的に対処法を伝えたり、やって見せると良いかもしれません。今以上の子育ての負担感を与えないような配慮が必要だと思います。また、父親や祖父母、保健センター等の関係機関などとの協力体制を構築していくことを検討してみたいかがでしょうか。

きょうだいへの支援

Q

自閉症のある子どものきょうだいへの支援について知りたい。

question

同じ園にきょうだいがいます。最近、そのきょうだいの方が、他の子とおもちゃの取り合いなどのトラブルが多くて困っています。どのように対応すると良いのでしょうか。

A

answer

保護者が忙しくてきょうだいに十分にかかわれない、「あなたは一人でちゃんとして」という周囲の大人から無言のプレッシャーを感じている、家庭できょうだいげんかが絶えずそれを園に持ち込んでいる、きょうだいにで同じような行動上の特性を持っている、などが考えられると思います。まず、先生の愛情を振りかけてもらうことと、お母さんときょうだい児がゆっくりと関わる時間が作れるようにサポートできると良いですね。

一般的に、自閉症のある子どもを育てていると、きょうだいがいた場合、どうしても自閉症のある子どものほうに多くの時間を使ってしまうがちです。きょうだいの立場に立てば、「なぜ両親は自分よりも自閉症のきょうだいのことばかり心配しているんだ」という思いが浮かぶのも自然なことです。このような事態にどのように対応するか、王道はないかもしれませんが、自閉症のあるきょうだいをもった自分を肯定的に受け止められる日があるまで、例えば、きょうだいが親を独占できる日（例えば誕生日にあわせて、毎月〇〇日など）を作ったり、きょうだいそれぞれが両親にとって大切な存在であるというメッセージを送り続けて欲しいと思います。

7 周囲の子どもたちやその保護者への支援

Q 周囲の子どもたちへの支援について配慮する点は？

question

クラスの中に支援を要する子がいる場合、他の子どもたちが真似をしたり一緒にふざけて行動してしまうことがあり、クラスが落ち着きません。また、なぜ障がいのある子だけ許されるのかといったような質問をされるときがあります。集団の中での発達障がいのある子の立場を伝えたり、みんなで支え合っていくことをどうやって支援していけば良いのでしょうか。

A

answer

子どもは、自分を愛してくれる大人が大好きで、求められるようにきちんとしたい。ほめて欲しい。でも、楽しそうなことはなんでもしてみたい。そんな子どもたちにちゃんと向き合いたい。ルールをちゃんと教えたい。でも、どこまで特別支援教育を説明すれば良いのだろうか。子どもたちに不平等に映らないだろうか。どこまでわかってもらえるのだろうか。子どもやご家族との向き合い方は、難しいですよ。

例えば、「なんでAくんは、立ち歩いても怒られないの？ ぼくも遊びたい!」と、自閉症のあるAくんの行動への保育者の態度にBくんから疑問を投げかけられた時、何となく後ろめたさを感じてしまうかもしれません。しかし、Bくんの受け止めてもらいたい本当の気持ちは、ぼくは立ち歩かないで一生懸命がんばっているよという気持ちではないでしょうか。「Bくんはよくがんばっているね。Aくんは今座ってお話を聞くことを勉強中なんだ。お手本を見せてあげてね」と協力を求めることはできないでしょうか。いつかAくんが立ち歩かずにBくんと同じように勉強できるようになる日を、子どもたちと共有できると良いと思います。

Q

周囲の子どもの保護者たちへの対応は？

question

一対一のかかわりを必要とする子が年々増えている中、集団行動がとれなかったり落ち着いて話を聞くことができない発達障がいのある子どもたちの他児へ与える影響が大きく、クラス全体が落ち着かなくなってしまうことがあります。特性を理解し、受け入れたい気持ちで保育を進めているのですが、他の子への支援やその保護者の方に理解をしていただくにはどのように対応していけば良いのでしょうか。

A

answer

周りの保護者の理解についてですが、保護者が障がいを公表し理解を求めるというケースもあるかもしれませんが、好意的に見てくれている人から少しずつ理解を広めていった方が良いと思います。ただし、自閉症のある子どものほうが何らかのトラブルの加害者となってしまうような場合などは、被害者の保護者には、園・保護者ともに誠意を持って個別に説明をされた方が良いと思われます。

Q

苦情があった場合の対応について知りたい。

question

6歳の男児。アスペルガー症候群の診断。落ち着きがなく、他児とのトラブルもある。「しつけがなっていないのではないか、あの子と同じクラスにしないでほしい」などと周りの保護者から苦情があった場合の対応について教えて下さい。

A

answer

一般的に、苦情への対応は園の方針や、苦情を申し立てる側の個別の事情、地域の特性などが大きくかかわってくるので、ここで何か回答できるものではありません。他の園や関係機関との情報交換の中で対応の見通しが立てられると良いですね。

園の運営に協力的な保護者の協力を得たり、子どもの育ちの個人差や育ち合いについて保護者に説明できる機会を持つことも間接的に有効だと思われます。

障がいのある子どもを受け入れると、時にはその子どもがいるクラスでトラブルが起こるというマイナスの面もあるかもしれません。しかし、クラスに障がいのある子どもがいることで周囲の子どもたちが思いやりのある子どもに育つといったプラスの効果などを入園時の説明会や様々な機会を通じて園の方針として伝えられると良いと思います。

8 園内の支援体制について

求められる機能・人員体制・カリキュラム

Q 保育所や幼稚園に期待する機能は？

question

発達障がいのあるお子さんは、園に「お客さん」としているのではなく、その存在が他の子にとっても、障がい児にとっても意義深いものだと思っています。療育施設側が幼稚園・保育所に期待している機能はどのようなものでしょうか。

A

answer

ご指摘のように、幼稚園や保育所は社会参加のはじめの一步で、インクルージョン・ユニバーサルという考え方を体験できることは定型発達の子どもたちにとって大変有意義だと思われます。実際、特別支援教育の発展と「皆と協力してより良いものを作ろう」「普通に地域できちんと生きることが大切」という社会の機運は並行しているように感じます。もちろん、特別支援教育の果たす役割だけではなく、個人の利益を追求することが必ずしも幸せにつながるわけではないという様々な社会現象、経済変化が背景にあることは言うまでもありません。しかし、保育や教育分野における新たな方向性への打開策の一つになっているのが特別支援教育の考え方だと思われます。一人ひとりが大切にされる、皆で支えあうことの意義が子どもたちに伝わると良いですね。

障がいの有無にかかわらず、保育所や幼稚園に期待されている機能は、集団での教育的効果だと思われますが、自閉症のある子どもたちの場合、そもそも集団行動が苦手な面がありますので、ただ参加させれば良いというわけにはいかないと思います。障がい特性に配慮された支援のもとで、一定の発達を保障される環境が求められます。

Q 長時間保育の子どもは、保育者を交代する必要があるが、これ以上人を増やせない…

question

広汎性発達障がいのある子どもが2名います。保護者の就業時間の関係で朝8時前から午後6時過ぎまで園で過ごしています。保育時間が8時間を越えての保育は保育士が交代しますが、交代することでトラブルが発生します。新たに職員を雇うには、人件費が増加することなどから困難です。どのような支援体制を作っていくと良いのでしょうか。

A

answer

近年、両親共働きで、かつ共に長時間労働という家族が増えているように感じますが、結果として子どもが長時間保育所にいるという状態になります。かかわる保育者も1人ではなく、交代せざるをえません。自閉症のある子どもたちは、かかわる人や環境が変わることで不安を抱きやすい面がありますので、職員一人一人が発達障がいに関する知識を持ち、チームで保育を行うことが理想だと思います。担当の先生を複数体制にして、対象の子どもさんの変化への耐性を高められると良いですね。理想と現実とは当然違いますので、実際はうまくいかないところもあるかもしれませんが、職員が交代したときの子どもの不安や混乱を最小限にとどめられるよう事前に職員が交代することを予告するなどの工夫や、一貫した対応に心がけていただくと良いと思います。

Q

視覚支援などをしたいが、職員が足りず、言葉がけが多くなってしまおう。

question

4歳の女兒。自閉症で知的障がいもあるとの診断。保育室をぐるぐる回ったり、口に砂や糸を入れたりする姿が見られます。研修会等に参加すると絵カード等を使って視覚にも伝えていくことが大切だとお聞きしましたが、集団生活の中でどうしても本児一人に保育者が一人つくことができず言葉がけが多くなってしまいます。このような時、どのように援助することが本児の成長につながるのでしょうか。

A

answer

4歳で質問にあるような姿が見られるとすると、障がいの程度が比較的重い子どもさんと推察されます。保育所や幼稚園ではなかなか個別の対応・体制がとれず御苦労があるかと思います。禁止の声がけが多くなってしまおうのでしょうか。声をかけた場面を時間・全体の活動内容・注意の声がけが必要だった対象児の行動・声かけ後の周りの子どもと対象児の様子を表にして書き出してみてください。エプロンの中に表を入れておいて、メモをしておくと思えます。3日間だけでもがんばってください。その表をもとに、注意すべきか、見守りで良いかを判断し、事前に準備して予防することができないか、他の先生に協力してもらえないか、どのように安全を確保したらよいかなどを検討してください。解決策が見つかるかもしれません。

担当の保育者が孤立することなく、園全体で対応することがまずポイントとなると思えます。また、一人一人の保育者が研修等に参加し、園内でできそうな工夫を実践してみることで、他の保育者仲間と勉強会を開催してみることで、他の専門機関との連携を図ることなど、いろいろと実践してほしいですね。

Q

担任が変わる。どのような配慮が必要か。

question

平成20年度より特別支援教育の体制づくりに取り組んでおり、対象児には1対1で対応できるよう配慮しています。4月より対象児の担当が変わるわけですが、すんなり信頼関係を結んで新担任に移行できるかどうか心配なところです。

A

answer

1対1の対応をできる体制がとれていること、すばらしいと思います。新担任への引継ぎですが、保護者とも連携しながら、子ども一人一人の課題や対応のほか、どのような状況をどういう理由で好むのか、あるいは苦手とするのかなど、背景にある内面の部分などもお伝えしていただくと良いと思います。保護者との連携という点では、保護者がサポートブック（自分の子どものコミュニケーションの特徴、接し方の工夫、日常生活の援助、生育歴などを記載したり、医療機関からもらった診断書や知能検査の結果等をファイリングしたりする手帳のようなもの）を作っている場合もありますので、参考にして欲しいと思います。どんなにしっかり準備しても3ヶ月くらいは不安定になるものです。3ヶ月で嵐が過ぎ去るように、しっかり準備して、後は腹をくくって、なんとか乗り切りましょう！

Q

独自の保育カリキュラムを作る必要があるか？

question

発達障がいのある、またはグレーゾーンの幼児の保育について、クラス全体の保育カリキュラムを発達障がいのある幼児に合わせたものにしていくべきか、それともクラスのカリキュラムと別個に発達障がいのある幼児独自のカリキュラムを用意すべきなのか教えてください。

A

answer

集団のプログラムを中心に、①参加できる活動に関しては、目標とする発達課題を個別に設定する、②参加できない活動に関しては、別の課題を用意するというのが基本だと思います。例えば、お遊ぎの練習をする場合、参加できる子どもさんの中にもいろいろな子どもさんがいます。なんとなく音楽を楽しむ、先生と一緒に一部踊る、耳を塞いでうすくまっている、耳を塞ぎながらも体をリズムに合わせて動かしてつらそうではない子。別の活動を準備した方が良い子は、うすくまって楽しくない、つらそうにしている、かんしゃくをおこす子などでしょう。カームダウンのスペースを保育室に準備しておき、嫌いな活動が終わるまで退避するなどの対策を考えてみるのも良いと思います。個別の課題を設定することが望ましいのは、日常生活活動の自立を促す活動だと思います。

子ども一人一人の状態に合った必要な支援を柔軟に行えると良いと思えます。その際、例えば、視覚支援や構造化、スモールステップなどの考え方は自閉症のある方々にしか使えない考え方ではありませんので、診断の有無にかかわらず、必要性を感じたのであれば、こうした支援スタイルを取り入れても良いと思います。また、玩具は、視覚や聴覚、振動覚を楽しめる感覚おもちゃや、型はめ、パズルなど幅広く準備できると良いですね。発達障がいの保育における工夫は、子どもさんの発達レベルや個性に合わせて柔軟に設定されているので、定型発達の子どものさんの理論的な発達刺激にも有効です。

発達障がいの見極めは必要？

Q 障がい特性か、わがままか？

question 障がい特性なのか、わがままなのかの判断に迷います。どのように対応したら良いのでしょうか。

Q 養育環境の問題か、発達障がいか。

question 落ち着きがなく、経験不足なのか友だちとのやりとりもあまり上手ではありません。保護者は最近離婚したばかりで、養育環境の問題なのか、発達障がいかわるのか迷います。

A

answer

子どもを育てる時、「がんばらせたい・がまんを覚えさせたい」「でも、無理させられない」「どこまでがんばらせても良いものか」といつも迷いますよね。子どもとちゃんと向き合っているからこそ沸いてくる疑問なのでしょう。できそうでできない、できる時とできない時がある、反抗的に思えるなどの状況で感じる疑問かもしれません。いずれにしても、子どもにとっては、まだ十分定着していない、まだ精神的努力を必要とする課題なのでしょう。課題の優先順位を考えてみてはいかがでしょうか。今取り組むべき発達課題か、子どもと戦っても乗り越えさせる価値のある大切なことか、ちょっと客観的に考えてみてください。また、どうしてわがまま？と感じるのか、考えると対処法がわかるかもしれません。

「障がい」か「わがまま（個性）」かという問いの背景には、そのような疑問を持つ方々の視点のようなものが見え隠れしているように感じます。自閉症の子どものわがままな行動もあるでしょうし、わがままな行動が自閉症の障がい特性のように見えることもあるでしょう。「障がいであれば、わがままでない」、「わがままであれば、障がいではない」といったものではないように思われます。親や保育者を困らせてしまうような行動をとる時、障がい特性かわがままかと考えるのではなく、診断名はなくても、その子どもがどのような課題をもち、必要な手だては何かを考え、障がい特性やわがままという言葉を使わずに、そうした状況を表現できると良いと思われます。

また、養育環境の問題か、発達障がいかという問題も二者択一的なものではなく、両方の可能性があるかもしれません。いずれにしても一人一人の支援ニーズに沿った保育・教育をしていくことが原則だと思います。子どもは社会の鏡とも言われますが、子どもはその時代の社会環境や周囲の大人たちの姿に良い意味でも悪い意味でも適応した姿を見せるものだと思います。子どもたちの内なる声・メッセージに配慮したかわりが求められるのではないのでしょうか。養育環境の問題なのか、発達障がいなのかは、難しいデリケートな問題かもしれませんが、子どもにとって必要な支援を続けることで、判断できてくると思われます。

Q 保健師から「様子を見ましょう」と言われている。発達障がいかどうかの見極めは？

question 保健師さんからは、3歳の健診時に様子を見ましょうと言われたとのこと。園では集団活動が苦手で、多動傾向もあたり、お友だちとの会話が一方的になりがちなところを心配しています。どのように見極めていくと良いのでしょうか。

A

answer

特に高機能の広汎性発達障がいの場合、従来の健診の場ではなかなか発見されにくいこともあるようです。保育所や幼稚園等の集団場面を体験して症状がはっきりするといったこともあるようです。これまで多くの子どもたちの成長を見守ってきた保育所や幼稚園の先生方の目は正しいことが多いと感じていますので、おそらくこのケースの場合も発達障がいの傾向のある子どもなのかもしれません。

ただし、発達障がいであるかないかを見極めることよりも、この子どもに今必要な支援の手だては何か、本児が何に困っていて、どのような支援が有効なのかを検討していくことが大切だと思います。保護者に子どもの状態をお伝えして一緒に考えていくことから始めてはいかがでしょうか。

9 他の支援機関との連携について

Q 専門機関へ相談したい。

question

園として、専門機関に相談したい。どこに相談したら良いのでしょうか。また、自閉症のある子どもたちを保育している場合、専門機関との連携は必ず必要なのでしょうか。

A

answer

相談できる主な機関は、市町村役場（保健師等）、障がい児の通園事業を実施している施設（児童デイサービス事業所等）、児童相談所、保健所、医療機関、特別支援学校、総合療育訓練センター（山形県発達障がい者支援センター）でしょう。

ただし、こうした機関の職員は、保育所や幼稚園のように子どもの状態を日々見ていないことも多く、アドバイスが一般論的なものになってしまうこともあるかもしれません。アドバイスをきっかけとして、保育者一人一人が援助技術を向上させていくことが必要だと思われます。

なお、障がい児の通園事業を実施している施設等の連絡先は、巻末の資料に掲載してあります。

Q 専門機関と連携したい。

question

4歳の女兒。これから月1回程度、聾学校へ通級となりますが、聾学校と園とでの連携が大切になってくると思いますが、具体的にどのような連携をしていくことが望ましいでしょうか。

Q

question

身辺自立の面で援助が必要。どこまで他の子どもとのかかわりを持たせると良いか。支援機関との連携は？

今年の7月で5歳になる男児。自閉症と知的障がいがある。週に3日間は小規模通園施設、2日間は保育園に登園し、保育園では2歳児の子と一緒に活動していますが、全ての面（特に排泄、食事、衣服の着脱など）で援助が必要です。言葉も喃語の状態なので、一人遊びがほとんどで集団行動もスムーズにできません。そこで、どこまで他の子とかかわりを持たせたらよいか、一つのことを理解させるにはどのような方法や手段がよいのか日々戸惑っています。また、このような子にはどのような配慮が必要なのでしょうか。

Q

question

専門機関の支援方法等を知りたい。

障がい児の通園施設に週1回通園している5歳の男児。会話は一方的で、こだわりも強い。すぐ感情的になり家庭でも同様。にぎり箸などを注意されると「自分はできない」と言いながらも関心を示し始めています。専門機関での本児の様子、支援方法等を詳しく知りたいのですが連携を密にするために何か良い方法があるでしょうか。

A

answer

保育所や幼稚園と専門機関を同時に利用するケースがありますが、保護者の了解を得て専門機関と連携をとることが大切だと思います。支援の場面を見学させてもらったり、専門機関の担当の方と情報交換させてもらったりすると良いでしょう。「かけはしノート」や「かんがるうのーと」のようなサポートブックの活用も有効だと思います。また、保育所や幼稚園での子どもの状況等を専門機関に伝え、アドバイスをもらうということもできるかもしれません。

2つ目の質問ですが、身辺自立の全ての面で援助が必要ということで、比較的障がいの程度が重い子どもさんと推察されます。障がい児の通園施設と保育所を併用しているということで、一定の専門的な療育を受けているようですね。小規模通園施設と連携して、その子どもさんの情報交換はなされていますか？対象の子どもさんについていろいろと話すうちに、支援の方策が見つかるかもしれません。自閉症の子どもたちは、場面が違つと見せる姿が全く異なる特性があったり、職員の体制でできることが限られたりして、いろいろと違いはありますが、お互いの違いを理解して、お互いを尊重する気持ち、決して恵まれていない職場環境の中でもがんばっている自分自身にエールを送りながら、レッツ・コミュニケーション！話すうちにわかることって多いと思います。

最後に3つ目の質問ですが、保護者の同意を得て見学をさせていただくと良いかもしれません。ただし、専門機関での療育と、保育所や幼稚園における保育・教育は違いますので、すべてを模倣する必要はありません。また、専門機関の担当者顔と顔の見える関係を作ることも大切だと思います。

Q 小学校との連携は必要でしょうか。

question

就学に向けて、小学校とどのような連携をとっていくと良いのでしょうか。小学校の先生方には、新たな視点でかかわってもらった方が良いのでしょうか。

A

answer

大切なことは、子どもの情報を小学校へ伝えていくということです。新たな視点で見てもらったほうがよい、また小学校サイドから新たな視点で見たいといった話があるかもしれませんが、これまで園として配慮してきたところや、子どもの得意・不得意などを伝えることは、小学校の先生方の参考になるばかりではなく、結果として子どもが小学校生活をスムーズに過ごせるようになることにつながると思います。また、保護者がどのような思いで学校を選択したのかといった点などもお伝えできると良いと思います。

なお、就学にあたり、その地域の就学に関するシステムを把握しておくとも良いと思います。

Q 進路の方針が、保護者と違う…。教育委員会との連携は？

question

就学に向けて、園と保護者で進路の方針が異なっています（園では特別支援学校が適当、保護者は地元 학교が適当と思っているなど）。どのように支援していくと良いのでしょうか。

A

answer

障がい受容の慢性悲哀説を御紹介したところでも触れましたが、保護者は就学時、高校進学時など人生の節目ごとに悩み、葛藤するものです。保育者には、こうした保護者の心のゆれ動きに寄り添うことや、就学にあたっての必要な情報を提供することが求められているのではないのでしょうか。私たちにできることは、情報を提供し、両親が子どもにとって何が大切かを考えて判断できるように支援し、両親が決断したことに対して前向きに寄り添うことだと思います。

教育委員会による判断もありますが、保護者は子どもが就学するにあたって、特別支援学校か、特別支援学級か、通常学級か、通常学級に在籍しながら通級による指導を受けるかという選択を迫られます。山形県内の全ての小・中学校には、特別な教育ニーズを有する子どもやその保護者に対して適切な支援を行うため、小・中学校に設置された「校内委員会」を運営する役割を担ったり、学校外の関係機関や専門家、エリア内の特別支援学校との連携調整役となったりする「特別支援教育コーディネーター」に指名されている先生が1人または複数いますが、特別支援学校や特別支援学級などは住んでいる地域によって事情が異なります。特別支援学校では、自分の住んでいる地域からの通学が困難で寄宿舎に入舎するということもありますし、特別支援学級は地元の学校にないという場合もあります。通級による指導もすべて対象となる子どもの在籍校で行うことができるようにはなっていません。

教育委員会などからも情報をとりながら、必要な情報提供を行い、保護者が適切な判断を出せるよう協力者としての姿勢で対応すると良いと思います。このケースのように進路に向けた意見が保護者と園で異なるという場合もあるかもしれませんが、最終的には保護者の判断を尊重したいと思っています。日ごろから子どものより良い成長に向けた保護者と園との共通理解や協力体制を作っていくことで、こうした意見の違いが少なくなると良いと思われれます。

Q 親の会について知りたい。

question

親の会があると聞きました。保護者に情報提供したいのですが…。

A

answer

山形県自閉症協会、山形AD／HD児・者親の会「トットちゃん」、山形県LD児・者親の会「ピーターパン」、AD／HD・LDを考える会「てんとう虫」、特定非営利活動法人「庄内アインシュタインの会」、スワンの会など、自閉症等の発達障がいを対象とした親の会があります。中には保護者の他に、医師等の専門家が会員となっている団体もあるようです。詳しいお問い合わせは、山形県発達障がい者支援センターまで（023-673-3314）お願いします。

Q 研修会などの情報が入ってこない。

question

発達障がい者支援センターや、教育委員会などが主催する研修会に参加したことがありますが、情報が入ってこない場合もあります。良い方法はないでしょうか？

A

answer

すべての保育所や幼稚園に毎回研修会の御案内をできると良いのですが、予算等の制約もあり、市町村の担当課等から御案内いただくという方法をとる場合もあります。

なお、発達障がい者支援センター主催の研修であれば、すべてホームページに掲載しますので、時々チェックしていただくと良いかと思われれます。他の団体主催の研修も、最近はほとんどホームページに掲載されるようですので、同様に時々チェックされると良いかと思われれます。

URL <http://www.pref.yamagata.jp/ou/kenkofukushi/091007/yddc.html/>



10 関係制度の利用について

Q 加配の保育士をつける基準は？

question

自閉症のある子どもたちを保育園で預かる際、加配の保育士をつける基準はありますか？

A

answer

障がいのある子どもを保育所で受け入れるために職員を加配するための予算は、国から補助金が出ていた時期もありましたが、現在は一般財源化されていますので、基本的には各市町村の裁量により加配がなされるようです。障がい児1人に対して、加配の職員を1人つけられるような自治体もあれば、そうではない自治体もあるようです。詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

Q 経済的な支援はあるか？

question

経済的な支援について情報提供したいのですが…。

A

answer

主に、「特別児童扶養手当」と「障害児福祉手当」があります。概要は以下のとおりですが、詳しくは各市町村の障がい福祉担当課へお問い合わせ下さい。

【特別児童扶養手当】

この手当は、身体や知的発達、精神に障がいがある20未満の児童を養育している父母または養育者に支給されます。ただし、児童が児童福祉施設（保育所、通園施設を除く）に入所（母子入園を除く）している場合は支給されません。

☆手当額（平成21年度）…障がい程度1級 月額 50,750円 2級 月額 33,800円

【障害児福祉手当】

この手当では、重度の障がいがある20歳未満の児童に支給されます。ただし、児童が児童福祉施設（保育所、通園施設を除く）に入所（入所は母子入園を含む）している場合は支給されません。

☆手当額（平成21年度）…月額 14,380円

Q 障がい者手帳について知りたい。

question

療育手帳やその他の障がい者手帳について情報提供したいのですが…。

A

answer

「療育手帳」と「精神障害者保健福祉手帳」について御紹介します。大まかに言うと、知的障がいのある自閉症の方は「療育手帳」を、知的障がいのない自閉症の方は「精神障害者保健福祉手帳」が対象になりますが、それぞれ該当するかどうかは、各手帳の判定や審査をする機関の判断となります。申請はいずれも市町村の担当課となります。

【療育手帳】

この手帳は、知的障がい児(者)に対して一貫した指導、相談を行うとともに各種の援護を受けやすくし、福祉の増進を図るために交付されるものです。対象者は、児童相談所（18歳未満）又は知的障がい者更生相談所（18歳以上）において知的障がいと判定された方です。障がいの程度により「A・重度」「B・その他」と区分されており、年齢区分に応じて、定期的に障がい程度の確認が必要となります。

【精神障害者保健福祉手帳】

この手帳は、精神障がいのある方が、各種の援護を受けやすくし、福祉の増進を図るために交付されるものです。対象者は、精神障がいのため、長期にわたり日常生活または社会生活への制約がある方です。障がいの程度により1級～3級と区分されており、手帳の有効期間は2年で、有効期間の延長を希望する方は、更新手続きが必要となります。

II 広汎性発達障がいとは

広汎性発達障がいは、医学的 (DSM-IV-TR参照) に自閉性障がい、アスペルガー障がい (症候群)、レット障がい、小児期崩壊性障がい及び特定不能の広汎性発達障がいの5つのタイプに分類されています。この内、最近注目されているものが、自閉性障がい、アスペルガー障がい (症候群) 及び特定不能の広汎性発達障がいの3つのタイプとなるでしょう。

本冊子では、こうした3つのタイプを「自閉症」と表現してきましたが、それは障がい特性や支援スタイルが基本的に同様と考えたからです。そこで、ここでは「自閉症」の詳細な診断基準ではなく、主な障がい特性 (①社会性の特徴、②コミュニケーションの特徴、③想像力の特徴及び④その他の特性) についてまとめておきました (表1)。

こうした特性を知り、対応を検討していくと良いと思います。それぞれの特性の詳細については、巻末に掲載した参考書籍等で学んでいただきたいと思います。総じて、自閉症のある人たちは、知的障がいの有無に関わらず、他者との双方向のあるいは共感的なやりとりが苦手で、見通しを持ちにくく、定型の発達をしている人たちが想像している以上に不安や恐怖感を抱いていると人たちと考えられます。

表1

1 社会性の特徴	視線や表情で気持ちを伝えるのが苦手・相手と気持ちを共感することが困難・一方的なかかわり方になりやすい・同年代の子とも対等な仲間関係が築けない・暗黙の了解に気付かない・どちらかというと一人で居たい・一人遊びが多い。
2 コミュニケーションの特徴	話し言葉やジェスチャーなどの非言語のコミュニケーションをちゃんと理解できない、また使用できない・オウム返しや独り言が多い・会話が成り立ちにくい。
3 想像力の特徴	目の前にないことをイメージすることが難しい・興味の限定・遊びが豊かに広がらない・手をヒラヒラさせたり、うれしいときにジャンプを繰り返すなどの反復的動作・新しいことや見通しの立たないことに不安を感じやすい・予定の変更に対して混乱しやすい。
4 その他の特性	感覚の敏感さや鈍感さ・運動の不器用・不注意・落ち着きのなさ・衝動性・睡眠の問題・聞いたこと(聴覚)よりも見たこと(視覚)の方がわかりやすい

なお、最近「広汎性発達障がい」という障がい名に加えて、自閉症スペクトラムという言葉も使われるようになってきました。スペクトラムは連続体という意味だそうですが、これはイギリスの精神科医で自閉症のある子どものお母さんでもあるローナ・ウイング氏が1996年に提唱した概念で、自閉症からアスペルガー障がい、知的な遅れがない例から重度の知的な遅れがある例まで連続した一つのものとして表現した広い概念です。DSM-IV-TRのようなカテゴリー的な診断とは対照的な概念とも言えそうです。保育所や幼稚園等の直接支援の現場においては、こちらの概念の方が利用しやすいかもしれません。

上記の①から③の3つの特徴は、このローナ・ウイング氏の名前をとってウイングの三つ組とも呼ばれているそうです。この三つ組は、その特徴が色濃くあらわれている(典型)例から、少しつき合わないとわからないほどに色合いの薄い(非典型)例まで、一人一人あらわれ方が違い、まさにスペクトラムという表現があてはまります。

一方、高機能とは、知的な障がいが明らかでないという意味で使われています。高機能自閉症は、知的な障がいのない自閉症ということになります。アスペルガー障がい(症候群)も言葉の遅れや知的な障がいが明らかでないことが多いことから、高機能自閉症とどう違うのかという話題がしばしば出ますが、本冊子では障がい特性や支援スタイルが基本的に同様と考え、区別をしていません。



出典: (株)診断と治療社「あなたが育てる自閉症のことば
2歳からはじめる自閉症児の言語訓練」(著:藤原加奈江)より許可を得て転載

III 資料 ～障がい児療育のための施設・機関案内～

障がいのある子どもたちの療育や相談を行っている主な施設・機関の連絡先を御紹介します。

知的障がい児通園施設

名 称	〒	住 所	電話番号	FAX
こまくさ学園	990-2305	山形市蔵王半郷1366-2	023-688-3531	023-688-3532
山形ひかり学園	999-3103	上山市金谷字金ヶ瀬1111	023-672-2377	023-672-2378
酒田市はまなし学園	998-0029	酒田市住吉町10-24	0234-33-3283	0234-33-3283

児童デイサービス事業実施施設

施設名・事業所名	〒	住 所	電話番号	FAX
指定児童デイサービス事業所ひよこ教室	990-2305	山形市蔵王半郷1366-2	023-688-3531	023-688-3532
すぎの子教室	990-0021	山形市小白川町2-3-47 山形市福祉文化センター内	023-626-5430	023-626-5431
アイアイひろば	990-0025	山形市あこや町3-11-7	023-615-8680	023-615-8680
児童デイサービスセンターぶち・ぐ〜	990-2492	山形市鉄砲町1-14-53	023-624-4131	023-624-4131
サポートスクエア ぱおぱお	990-0052	山形市円応寺町7-10	023-625-3855	023-625-3855
ワクワク指定児童デイサービス事業所	990-0035	山形市小荷駄町2-7	023-623-6622	023-623-6622
児童デイサービス事業所 ころころ遊園	991-0032	寒河江市南町3-3-31	0237-86-0160	0237-86-0161
発達支援センターひかり	999-3103	上山市金谷字金ヶ瀬1111	023-672-2377	023-672-2378
米沢市立ひまわり学園	992-0045	米沢市中央六丁目1-45	0238-21-1330	0238-21-1330
児童デイサービスセンター「虹の子」	992-0035	米沢市太田町四丁目1-100-10	0238-38-6905	0238-38-6906
長井市すみれ学園	993-0017	長井市花作町10-27-14	0238-88-4226	—
もみの木教室デイサービス事業所	996-0085	新庄市堀端町7-40	0233-23-0600	0233-23-0600
くれよんはうす	996-0002	新庄市金沢1439-22	0233-23-6681	0233-23-6681
あおぞらはうす	996-0041	新庄市鳥越483-4	0233-22-3880	0233-22-3880
鶴岡市立あおば学園	997-0021	鶴岡市宝町18-50	0235-29-1502	0235-33-9900
特定非営利活動法人光の子	997-0047	鶴岡市大塚町28-40E	0235-25-3340	0235-25-3340
酒田市はまなし学園 まつのみクラブ	998-0029	酒田市住吉町10-24	0234-33-3283	0234-33-3283
特定非営利活動法人なでしこSHONAI ドレミファさかた福祉施設いろは	998-0042	酒田市上本町7-24	0234-23-0755	0234-26-4300
アシスト児童デイサービスセンター	998-0853	酒田市みずほ2-8-4	0234-26-3365	0234-26-3365
児童デイサービス そよ風クラブ	998-0875	酒田市東町1-15-25 未来創造館内	0234-25-8380	0234-25-8385
福祉施設そら	998-0016	酒田市北千日町18-28	0234-31-9602	0234-31-9602
福祉施設ドレミファ	999-7782	庄内町松陽3-1-4	0234-42-2455	0234-42-3855

障がいのある子どもたちの療育や相談を行っている主な施設・機関の連絡先を御紹介します。

市町村単独の障がい児通園事業

施設名・事業所名	〒	住 所	電話番号	FAX
のぞみ学園	994-0071	天童市大字矢野目2195	023-656-8754	023-656-8753
東根児童館	999-3783	東根市本丸南1-1-2	0237-42-0307	0237-42-0307
いずみ学園	995-0035	村山市中央1-6-5 いきいき元気館内	0237-52-0520	0237-52-0520
酒田市はまなし学園 まつのみ教室	998-0029	酒田市住吉町10-24	0234-33-3283	0234-33-3283

知的障がい児施設

施設名・事業所名	〒	住 所	電話番号	FAX
最上学園（療育相談「陽だまり」）	996-0051	新庄市松本55-1	0233-22-1559	0233-23-5266
やまなみ学園	993-0033	長井市今泉1812	0238-88-9311	0238-88-9366
鳥海学園	999-8437	遊佐町藤崎字茂森14-178	0234-75-3334	0234-75-3872

児童相談所

施設名・事業所名	〒	住 所	電話番号	FAX
中央児童相談所（福祉相談センター）	990-0031	山形市十日町1-6-6	023-627-1195	023-627-1114
庄内児童相談所	997-0013	鶴岡市道形町49-6	0235-22-0790	0235-22-2543

総合療育訓練センター

施設名・事業所名	〒	住 所	電話番号	FAX
総合療育訓練センター（本所）	999-3145	上山市河崎3-7-1	023-673-3366	023-673-3757
山形県発達障がい者支援センター	999-3145	上山市河崎3-7-1 総合療育訓練センター内	023-673-3314	023-673-3360
総合療育訓練センター（庄内支所）	997-0013	鶴岡市道形町49-21	0235-23-4584	0235-23-4595

1. 内山登紀夫(監修) 諏訪利明・安倍陽子(編)
特別支援教育をすすめる本① こんなとき、どうする?発達障害のある子への支援(幼稚園・保育園) ミネルヴァ書房(2009)
2. 芸術教育研究所(監修) 両角美映(著)
発達が気になる子どもの保育 黎明書房(2008)
3. 佐藤暁・小西淳子(著)
発達障害のある子の保育の手だて 岩崎学術出版社(2007)
4. 田中康雄(監修)
わかってほしい!気になる子 自閉症・ADHDなどと向き合う保育 学研(2004)
5. 田中康雄(著)
軽度発達障害のある子のライフサイクルに合わせた理解と対応 学研(2006)
6. 田中康雄(著)
気になる子の保育Q&A発達障がいへの理解とサポート 学研(2008)
7. 七木田敦(編著)
保育そこが知りたい!気になる子Q&A チャイルド本社(2008)
8. 野呂文行(著)
園での「気になる子」対応ガイド ～保育場面別Q&A・保護者他との関わり・問題行動への対応など～ ひかりのくに(2006)
9. 発達障害の子どもへの理解と支援のための普及事業・事業委員会制作
子育て支援者のための発達障害入門 財団法人 家庭保健生活指導センター(2008)
10. 東田直樹(著)
自閉症の僕が跳びはねる理由 エスコアール出版部(2007)
11. 平岩幹男(著)
幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応 少年写真新聞社(2008)
12. 藤原義博(監修) 平澤紀子・山根正夫・北九州保育士会(編著)
保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド 学苑社(2005)
13. 松山郁夫(著)
発達障害のある子どもがすすすく育つ保育 中央法規(2009)
14. 無藤隆・神長美津子・拓植雅義・河村久(編著)
「気になる子」の保育と就学支援 ～幼児期におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導 東洋館出版社(2005)
15. 湯汲英史(編) 久保真理子・安江奈月(著)
発達障害を持つ子への保育・子育て支援 明治図書出版(2006)
16. 吉川かおり(著)
発達障害のある子どものきょうだいたち～大人へのステップと支援 生活書院(2008)
17. 吉田友子(著)
高機能自閉症・アスペルガー症候群「その子らしさ」を生かす子育て 中央法規出版(2003)
18. 佐々木正美(監修)・小林信篤(編著)
TEACCHプログラムによる日本の自閉症療育 学研(2008)
19. 梅永雄二(著)
自閉症の人の自立をめざして 北樹出版(2007)
20. 梅永雄二(編)
「構造化」による自閉症の人たちへの支援 教育出版(2008)
21. 井上雅彦(監修)・三田地真実・岡村章司(著)
子育てに活かすABAハンドブック 応用行動分析学の基礎からサポート・ネットワークづくりまで 日本文化科学社(2009)
22. アンディ・ボンディ/ロリ・フロスト(著)・園山繁樹/竹内康二(訳)
自閉症児と絵カードでコミュニケーション PECSとAAC 二瓶社(2006)
23. 藤原加奈江(著)
あなたが育てる自閉症のことば 2歳から始める自閉症児の言語訓練 診断と治療社(2005)
24. ピラミッド・ジャパンホームページ <http://www.pecs-japan.com>

平成21年3月31日

■発行 山形県立総合療育訓練センター（山形県発達障がい者支援センター）
〒999-3145 上山市河崎3-7-1 TEL:023-673-3314 FAX:023-673-3360

■印刷 社会福祉法人 山形コロニー協会 山形福祉工場（コロニー印刷）